

教育学区分	授 業 科 目	単 位	単 位 数		履 修 法	1 年		2 年		幼稚園 種 免
			必修	選択		前期	後期	前期	後期	
専門	障 害 福 祉 論	2	2		講義				○	
	子ども家庭援助技術特論	2		2	講義			○		
	子ども家庭福祉特論	2	2		講義	○				
関連	世 代 間 交 流 論	2		2	講義			○		
専門	保 育 者 看 護 論	2		2	講義			○		
	児 童 文 化 研 究	2		2	講義		○			
	保育実践特別研究Ⅰ	2		2	演習	○				
	保育実践特別研究Ⅱ	2		2	演習		○			
	保育実践特別研究Ⅲ	2		2	演習			○		
	保育実践特別研究Ⅳ	2		2	演習				○	
	修 了 研 究 Ⅰ	2	2		演習	○				
	修 了 研 究 Ⅱ	2	2		演習		○			
	修 了 研 究 Ⅲ	2	2		演習			○		
	修 了 研 究 Ⅳ	2	2		演習				○	
以外	文書購読プレゼンスキル演習	2		2	演習	○				
	生 涯 ス ポ ー ツ	1		1	演習				○	
	芸 術 論	2		2	講義				○	
	合 計	83	35	48						

修了の要件

必修科目36単位は必ず履修し、62単位以上の修得を修了の要件とする。

※教育学区分は、専門科目、関連科目、専攻に係る以外の科目の別を示す。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1単位	必修・選択
担当教員			
友廣 憲子			

講義概要	2年間の「音楽教育」を受講したことを土台として、保育者としての更に磨きをかける技術を身に付ける。保育現場で活用できる質の高い音楽力を習得する。
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション 音楽研究Ⅰの概要説明 学習課題 復習：本日の講義のまとめを行う 予習：ピアノ課題に取り組む</p> <p>2回目 ソルフエージュ①とピアノ 学習課題 復習：本日の講義のまとめを行う 予習：ピアノ課題に取り組む</p> <p>3回目 ソルフエージュ②とピアノ 学習課題 復習：本日の講義のまとめを行う 予習：ピアノ課題に取り組む</p> <p>4回目 ソルフエージュ③とピアノ 学習課題 復習：本日の講義のまとめを行う 予習：ピアノ課題に取り組む</p> <p>5回目 ソルフエージュ④とピアノ 学習課題 復習：本日の講義のまとめを行う 予習：クラシック曲の練習</p> <p>6回目 ソルフエージュ⑤とピアノ 学習課題 復習：本日の講義のまとめを行う 予習：クラシック曲の練習</p> <p>7回目 ソルフエージュ⑥とピアノ 学習課題 復習：本日の講義のまとめを行う 予習：クラシック曲の練習</p> <p>8回目 ソルフエージュ⑦とピアノ 学習課題 復習：本日の講義のまとめを行う 予習：クラシック曲の練習</p> <p>9回目 ソルフエージュ⑧とピアノ 学習課題 復習：本日の講義のまとめを行う 予習：</p> <p>10回目 ソルフエージュ⑨とピアノ 学習課題 復習：本日の講義のまとめを行う 予習：</p> <p>11回目 ソルフエージュ⑩とピアノ 学習課題 復習：本日の講義のまとめを行う 予習：</p> <p>12回目 ソルフエージュ⑪とピアノ 学習課題 復習：本日の講義のまとめを行う 予習：</p> <p>13回目 ソルフエージュ⑫とピアノ 学習課題 復習：本日の講義のまとめを行う 予習：</p> <p>14回目 ソルフエージュ⑬とピアノ 学習課題 復習：本日の講義のまとめを行う 予習：発表曲の練習</p> <p>15回目 ソルフエージュ⑭とピアノ 学習課題 復習：本日の講義のまとめを行う</p>
授業形態	演習
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>①ソルフエージュの基礎を修得できる。</p> <p>②ピアノの様々な時代の作品を演奏することができる。</p> <p>③視唱・視奏を行うことができる。</p> <p>④リズム譜を演奏することができる。</p> <p>⑤今まで演奏していない童謡の弾き歌いを10曲演奏することができる。</p>
教科書・参考書	テキスト：ジャンル別の曲については必要に応じてプリントを使用する。

履修条件	
履修上の注意	毎週、与えられた課題は練習してくること
オフィスアワー	授業時間前後に教室で質問を受け付ける。
備考・メッセージ	90分の授業の内、45分間をピアノの学習とする。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1単位	必修
担当教員			
陣内 敦			

講義概要	子ども達が登場する理想的な空間を想像しながら、幼児教育への夢を構築し、これをテーマとしながら紙粘土などを材料に箱庭を制作していく。また、制作の過程の中で、お互いの作品についてディスカッションすることで、表現の内容や方法のあり方確かめていく。また、この作品発表を行う。
授業計画	<p>1 オリエンテーションと制作の目的について 箱庭の制作についての概要 学習課題 予習：学科時代の図画工作について振り返りをおこなう 復習：表現について自己目標を立てる</p> <p>2 箱庭の中の物語性について 箱庭の中に込めようとする理想的な空間の構想 学習課題 予習：箱庭を用いた表現について思いをめぐらす 復習：現実ではない夢の世界を発想する</p> <p>3 表現内容と自分の子ども観 子どもたちが登場する空間の中に盛り込む内容を考える 学習課題 予習：自分の保育観・子ども観について思いをめぐらす 復習：子どもにどうあって欲しいか、思いをめぐらす</p> <p>4 箱庭のアイデアスケッチ（全体） 箱庭全体の構想を考える 学習課題 予習：箱庭の全体的な場面設定を想像する 復習：ここに展開する子どもたちの様子を想像する</p> <p>5 箱庭のアイデアスケッチ（部分） 箱庭に登場する人物等のディテールを考える 学習課題 予習：具体的な子どもたちの表情や動きを想像する 復習：制作の表現方法について構想する</p> <p>6 お互いのアイデアスケッチについてのディスカッション 自分の表現の意図を伝え他者からの意見を聞く 学習課題 予習：自分のアイデアスケッチを客観的に見直す 復習：他者の意見の意図やイメージを振り返る</p> <p>7 アイデアスケッチの修正 他者からの意見を踏まえスケッチを修正する 学習課題 予習：他者の意見も参考にした修正案を模索する 復習：表現への意欲を高める</p> <p>8 粘土成形と着彩① 紙粘土等の素材によって人物や動物を成形し、順次着彩する 学習課題 予習：造形素材の探索をおこない、表現方法や手順を考える 復習：制作の振り返りをおこない、表現の展開を考える</p> <p>9 粘土成形と着彩② 紙粘土等の素材によって人物や動物を成形し、順次着彩する 学習課題 予習：造形素材の探索をおこない、表現方法や手順を考える 復習：制作の振り返りをおこない、表現の展開を考える</p> <p>10 粘土成形と着彩③ 紙粘土等の素材によって人物や動物を成形し、順次着彩する 学習課題 予習：造形素材の探索をおこない、表現方法や手順を考える 復習：制作の振り返りをおこない、表現の展開を考える</p> <p>11 粘土成形と着彩④ 紙粘土等の素材によって人物や動物を成形し、順次着彩する 学習課題 予習：造形素材の探索をおこない、表現方法や手順を考える 復習：制作の振り返りをおこない、表現の展開を考える</p> <p>12 箱庭の空間制作① 様々な素材を用い、背景や土台となる空間を成形していく 学習課題 予習：造形素材の探索をおこない、表現方法や手順を考える 復習：制作の振り返りをおこない、表現の展開を考える</p> <p>13 箱庭の空間制作② 様々な素材を用い、背景や土台となる空間を成形していく 学習課題 予習：造形素材の探索をおこない、表現方法や手順を考える 復習：制作の振り返りをおこない、表現の展開を考える</p> <p>14 箱庭の空間制作③ 様々な素材を用い、背景や土台となる空間を成形していく 学習課題 予習：造形素材の探索をおこない、表現方法や手順を考える 復習：制作の振り返りをおこなう</p> <p>15 箱庭の展示発表 子ども観を詩にしたため、作品に添えて展示発表をおこなう 学習課題 予習：詩の構想を考える 復習：子ども観を伝えることの大切さを考える</p>

授業形態	演習
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	①幼児と接していく豊かな情操を獲得している ②基本的な造形（工作）技術と造形（工作）原理を習得している ③自らの保育観を想像的かつ創造的に具現化（立体化）することができる ④保育施設で保育者がおこなう造形に関連する役割を検証することができる ⑤保育者が備えるべき造形教育の資質を検証することができる
教科書・参考書	課題ごとに、必要な参考資料を提示。また、手順を解説したプリントを配布。
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業時間前後に教室で質問を受け付ける。任意に研究室を訪ね質問することも可能である。
備考・メッセージ	課題ごとの材料と道具は、一括購入する物と各自準備する物との別があり、事前連絡に留意すること。 また、課題ごとに設けた作品提出期限を厳守すること。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1単位	選択
担当教員			
陣内 敦			

講義概要	市販の絵本の中に込められているメッセージ内容を分析した上で、自らが子ども達へ伝えたい内容を構築しながら、お話の創作から画面制作へと進む。また、制作の過程の中で、お互いの作品についてディスカッションすることで表現方法のあり方を確かめていく。また、この読み語り発表を行う。
授業計画	<p>1 オリエンテーションと制作の目的について 絵本の創作についての概説と市販の絵本の紹介 学習課題 予習：自分が好きな絵本を持ってくる 復習：絵本の良さについて考える</p> <p>2 絵本の与えるメッセージ性について お話の中に込められているメッセージ内容の構想 学習課題 予習：自分や級友の紹介した絵本が伝えるメッセージ性について考える 復習：自分が絵本で伝えたいメッセージを考える</p> <p>3 メッセージ内容の構想① ストーリーの展開を考え、代表的な場面のラフスケッチを作る 学習課題 予習：自分が作りたい絵本の概要を考える 復習：自分の作ったラフスケッチとメッセージ内容の関係を確かめる</p> <p>4 メッセージ内容の構想② お互いのストーリーについてのプレゼンとディスカッション 学習課題 予習：自分のラフスケッチのプレゼンを考える 復習：級友からのアドバイス等を生かしながら構想を進める</p> <p>5 メッセージ内容の構想③ お話のコマ割り 学習課題 予習：具体的なお話の展開をイメージする 復習：コマ割りの修正を考える</p> <p>6 メッセージ内容の構想④ コンテ制作とこれについてのディスカッション 学習課題 予習：コマ割りの具体的修正をおこなう 復習：コマ割りを決定する</p> <p>7 各画面のアイディアスケッチ（線描き） ページのつながりを考えながら線描きをする 学習課題 予習：作画のイメージを作り始める 復習：線描きの修正をおこなう</p> <p>8 各画面のアイディアスケッチ（色彩構成） ページのつながりを考えながら色彩構成をする 学習課題 予習：色彩のページ展開を考える 復習：色彩構成の修正をおこなう</p> <p>9 描画技法の工夫 メッセージ内容と絵のタッチを合わせるために描画材料や描画技法を工夫する 学習課題 予習：描画をどのように進めるかイメージしていく 復習：描画材料の吟味をおこなう</p> <p>10 画面制作① 場合によって鉛筆下描きをしながら、描画を進めていく 学習課題 予習：表現意欲を高め、メッセージ内容に沿った描画イメージを作る 復習：表現への情熱を高めていく</p> <p>11 画面制作② 場合によって鉛筆下描きをしながら、描画を進めていく 学習課題 予習：表現意欲を高め、メッセージ内容に沿った描画イメージを作る 復習：表現への情熱を高めていく</p> <p>12 画面制作③ 場合によって鉛筆下描きをしながら、描画を進めていく 学習課題 予習：表現意欲を高め、メッセージ内容に沿った描画イメージを作る 復習：表現への情熱を高めていく</p> <p>13 画面制作④ 場合によって鉛筆下描きをしながら、描画を進めていく 学習課題 予習：表現意欲を高め、メッセージ内容に沿った描画イメージを作る 復習：描画表現の振り返りをおこなう</p> <p>14 お話書き ページごとに文字を入れていく 学習課題 予習：文を画面のどこに入れるか再調整をおこなう 復習：お話を声に出して読む</p> <p>15 絵本の発表 自作品の絵本の読み語りをおこない、声を出しての表現を試みる 学習課題 予習：読み語りの練習をおこなう 復習：絵本の制作について振り返りをおこなう</p>

授業形態	演習
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	①幼児と接していく豊かな情操を獲得する ②基本的な造形（絵画）技術と造形（絵画）原理を習得する ③幼児に伝えたいメッセージ内容を具現化（絵画と言葉によって）することができる ④保育施設で保育者がおこなう造形に関連する役割を検証することができる ⑤保育者が備えるべき造形教育の資質を検証することができる
教科書・参考書	課題ごとに、必要な参考資料を提示。また、手順を解説したプリントを配布。
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業時間前後に教室で質問を受け付ける。任意に研究室を訪ね質問することも可能である。
備考・メッセージ	課題ごとの材料と道具は、一括購入する物と各自準備する物との別があり、事前連絡に留意すること。 また、課題ごとに設けた作品提出期限を厳守すること。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位	卒業：必修 幼一免：選択
担当教員			
安部 恵美子			

講義概要	到達目標①から⑤を達成するための具体的な履修内容は以下のとおりである。 ①ケアの本質 保育の専門性としてのケア ケアの分野ととらえ方 保育の場におけるケア活動の具体 ②子どもの成長を助けるケアの質 子どもの自己実現を助けるケアの質 子どもと保育者が共に育つケアの質 ③OECD12カ国の幼児教育策と「ケア」 入学準備型保育カリキュラム 生活基盤型保育カリキュラム 保幼小連携 ④メイヤロフの「ケアの本質」 ケアの8要素の理解（知識 リズム変化 忍耐 正直 信頼 謙遜 希望 勇気） ⑤英語論文を読む 英語論文を和訳する 英語論文の内容を理解する
授業計画	<p>1 保育の本質・基礎理論としての「ケア」 保育の専門性としての「ケア」のとらえ方</p> <p>2 保育と教育、教育とケアの統合 保育の場（幼稚園 保育所）での教育とケアの統合の様相</p> <p>3 歴史的視点から見た教育とケアの統合 幼稚園教育と保育所保育の連携 小学校教育と保育の連携 認定こども園</p> <p>4 国際的視点から見た教育とケアの統合 OMEPの取り組み [early childhood care and education]</p> <p>5 メイヤロフの「ケアの本質」の解説 文献説明 本理論の卓越性について</p> <p>6 メイヤロフの「ケアの本質」を読む1 原書の輪読（英文和訳） Introduction</p> <p>7 メイヤロフの「ケアの本質」を読む2 原書の輪読（英文和訳） I-2 The Basic Pattern</p> <p>8 メイヤロフの「ケアの本質」を読む3 原書の輪読（英文和訳） I-2 The Basic Pattern</p> <p>9 メイヤロフの「ケアの本質」を読む4 原書の輪読（英文和訳） I-3 The Growth of a Person and the The Growth of an Idea</p> <p>10 メイヤロフの「ケアの本質」を読む5 原書の輪読（英文和訳） I-3</p> <p>11 メイヤロフの「ケアの本質」を読む6 原書の輪読（英文和訳） II Major Ingredients of Caring 4 Knowing</p> <p>12 メイヤロフの「ケアの本質」を読む7 原書の輪読（英文和訳） II-5 Alternating Rhythms 6 Patience</p> <p>13 メイヤロフの「ケアの本質」を読む8 原書の輪読（英文和訳） II-7 Honesty 8 Trust 9 Humility</p> <p>14 メイヤロフの「ケアの本質」を読む9 原書の輪読（英文和訳） II-10 Hope 11 Courage</p> <p>15 メイヤロフの「ケアの本質」を読む10 メイヤロフの「ケア」理論から保育の本質を考える</p>
授業形態	講義
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	①保育の本質や基礎概念である「ケア」理論に関する理解を深める ②「教育」と「ケア」の共通項に関する考察を深める ③「教育」と「ケア」の統合に関する国際的・歴史的観点を概観する ④他者の成長を助ける「ケア」の要素を理解する ⑤外国の保育思想書の原典購読を通じて語学力を養う
教科書・参考書	テキスト：「ケアの本質」 ミルトン・メイヤロフ 著 田村 真 向野宣之 訳 ゆみる出版 「On Caring」 Milton Mayeroff Harper Perenninal 参考書：関連資料は授業時に配布する
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	いつでも対応しますが、出張が多いため事前に予約をすること
備考・メッセージ	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位	卒業：選択 幼一免：選択
担当教員			
小田 賢司			

講義概要	<p>①環境を通して行う教育・保育遊びを通しての総合的な指導について理解する。 ②園並びに園周辺の環境の実態を把握し活動資料を収集整理する。（動植物の飼育栽培及び見学計画の立案） ③動植物とのふれ合いを通じた活動・空気や水に関する科学遊び・物や道具の役割・扱い方を理解する。 ④記号・文字や数量に対する興味関心の持たせ方を理解し、保育者に必要な知識・技能を理解する。 ⑤子どもの視点に立つ園の環境構成のあり方を理解する。小学校教育への発展を見込んだ活動を理解する。</p>
授業計画	<p>1 授業ガイダンス 本科の領域「環境」を復習し、専攻科での内容や取扱い及び留意事項等の関連や発展内容についての確認 学習課題 予習：テキストに目を通し内容を確認（本科重要学習事項を再確認）</p> <p>2 人間の生活と環境 環境について理解し環境を活かす人間の工夫・衣食住に関連する環境による教育 学習課題 復習：課題プリントの記入 予習：テキスト第2章を精読 指定分野の新しい遊びのアイデアを創造</p> <p>3 子どもと園の環境 子どもを主体とする園環境の整備・周辺環境の活用と指導法及び施設改善 学習課題 復習：課題プリントの記入 予習：テキスト第3章を精読 指定分野の新しい遊びのアイデアを創造</p> <p>4 子どもの発達と環境Ⅰ ①誕生から歩行までの環境 ②保育者の役割乳児期の発達と環境 学習課題 復習：課題プリントの記入 予習：テキスト第4章を精読 指定分野の新しい遊びのアイデアを創造</p> <p>5 子どもの発達と環境Ⅱ ①歩行から3歳までの環境 ②保育者の役割環境との関わり（探索・ためす・模倣） 学習課題 復習：課題プリントの記入 保育指針解説書発達過程6か月3歳を精読 予習：テキスト第5・6章を精読 指定分野の新しい遊びのアイデアを創造</p> <p>6 子どもの発達と環境Ⅲ ①4歳から5歳までの環境 ②保育者の役割 学習課題 復習：課題プリントの記入 保育指針解説書発達過程5歳を精読 予習：テキスト第7・8章を精読 指定分野の新しい遊びのアイデアを創造</p> <p>7 環境をつくるⅠ ①物を扱う ア.物と目標 イ.物と行動・シャボン玉・紙飛行機・糸電話 学習課題 復習：課題プリントの記入 さまざまな遊びの中の環境構成の留意点を考える 予習：テキスト第9章を精読 指定分野の新しい遊びのアイデアを創造</p> <p>8 環境をつくるⅡ ②動物を知る ア.動物とふれあう目標 イ.環境の準備と展開・動物の飼育 学習課題 復習：課題プリントの記入 環境と関わる力を育てる保育者の役割 予習：テキスト第10章（生物＜動物＞）を精読 指定分野の新しい遊びのアイデアを創造</p> <p>9 環境をつくるⅢ ②植物を知る ア.植物とふれあう目標 イ.環境の準備と展開・植物の栽培 学習課題 復習：課題プリントの記入 牛乳パック活用の植物栽培 予習：テキスト第10章（生物＜植物＞）を精読 指定分野の新しい遊びのアイデアを創造</p> <p>10 文字と数 ①文字がある環境 ②数と数量と生活 ③子どもの発達と数・数量 学習課題 復習：課題プリントの記入 保育室内での標識作り 予習：テキスト第10章（数量）を精読 指定分野の新しい遊びのアイデアを創造</p> <p>11 物の形と図形 ①基本的な図形と物体の形 ②図形の合成と分解・大きさと重さ 学習課題 復習：課題プリントの記入 折り紙ブロック教材の活用知識 予習：テキスト第10章（図形）を精読</p> <p>12 行事と子どもの関わり ①家庭行事との関わり ②地域行事との関わり及び支援・指導法 学習課題 復習：課題プリントの記入 予習：本科テキスト季節の移り変わり精読 指定分野の新しい遊びのアイデアを創造</p> <p>13 園環境の現状と改善の計画 [課題レポート1]・・・発表と考察検討 学習課題 復習：課題の発表準備 予習：テキスト第11章（保育計画）・付録を精読</p> <p>14 園環境の現状と改善の計画 [課題レポート2]・・・発表と考察検討 学習課題 復習：課題の発表準備 予習：テキスト第11章（保育計画）・付録を精読</p>

	15 保育計画の立案 インターンシップ園における保育計画案の検討年次計画・年間計画（月案・週案・日案の活用性ある形式） 学習課題 復習：保育所保育指針改定の要点を把握、幼稚園教育要領改訂の要点を把握
授業形態	演習
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	①子どもたちが置かれている環境の実態を正しく把握できる。＜園環境と園周辺環境＞ ②望ましい園環境の整備と活動の年間計画が設計立案できる。 ③生物、空気、水や土など使った遊び（活動）の指導法を立案できる。 ④一人一人の子どもの長短を把握して活動の適切な支援ができる。 ⑤インターン園の環境をチェックし課題を見つけその改善を計画できる。 レポート「活動計画案」及び各領域ごとの活動と「実習園の環境点検・改善」と演習態度及び期末試験を総合して評価する。 レポート「活動計画案」及び各領域ごとの活動25%、「実習園の環境点検・改善」5%、演習態度10%、期末試験
教科書・参考書	テキスト：萌文書林〔改定〕「子どもと環境」 中沢和子著 参考書：同文書院 領域「環境」三訂版 山内昭道・八並勝正編 文部省 「幼稚園教育要領」
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業の前後で対応します。
備考・メッセージ	学習した事項をインターンシップ園で実践して、取り扱い方法や成果について確認し、授業の中で発表できる取り組みが期待される。 環境に目を向け子どもの遊び（学習）に活かすことを念頭に、気づく・考える・実践化のスキルを毎回発表できるように努めよう。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位	講義
担当教員			
大橋 和博			

講義概要	<p>①子ども家庭福祉の基盤について理解を深め、そのあゆみを学ぶ。 ②子ども家庭福祉の仕組みや制度についてより深く理解する。 ③子ども家庭福祉を担う人的資源についてより深く理解する。 ④子どもを取り巻く現状や課題について学ぶ。 ⑤子どもを取り巻く現状や課題への対応を考察する。</p>
授業計画	<p>1 オリエンテーション 授業のねらいと進め方および評価について説明する 学習課題 復習：講義の内容を振り返って理解を深めておくこと 予習：参考書等で児童家庭福祉の内容を把握しておくこと</p> <p>2 子どもの貧困① 子どもの貧困について講義し、今日的課題についてディスカッションする 学習課題 復習：講義の内容を振り返って理解を深めておくこと 予習：参考書等で関連事項の内容を学習すること</p> <p>3 子どもの貧困② 子どもの貧困に関するテレビ番組を鑑賞し、感想や意見を交換する 学習課題 復習：講義の内容を振り返って理解を深めておくこと 予習：参考書等で関連事項の内容を学習すること</p> <p>4 子どもの貧困③ 子どもの貧困に関するテレビ番組を鑑賞し、感想や意見を交換する 学習課題 復習：講義の内容を振り返って理解を深めておくこと 予習：レポート作成の準備をすること</p> <p>5 子どもの貧困④ 子どもの貧困をテーマにレポートを作成し提出する 学習課題 復習：これまでの講義の内容を再度振り返って理解を深めておくこと 予習：参考書等で関連事項の内容を学習すること</p> <p>6 児童虐待① 児童虐待について講義し、今日的課題についてディスカッションする 学習課題 復習：講義の内容を振り返って理解を深めておくこと 予習：参考書等で関連事項の内容を学習すること</p> <p>7 児童虐待② 児童虐待についてさらに講義し、前回とは別の角度から今日的課題についてディスカッションする 学習課題 復習：講義の内容を振り返って理解を深めておくこと 予習：参考書等で関連事項の内容を学習すること</p> <p>8 児童虐待③ 児童虐待に関するテレビ番組を鑑賞し、感想や意見を交換する 学習課題 復習：講義の内容を振り返って理解を深めておくこと 予習：レポート作成の準備をすること</p> <p>9 児童虐待④ 児童虐待をテーマにレポートを作成し提出する 学習課題 復習：これまでの講義の内容を再度振り返って理解を深めておくこと 予習：参考書等で関連事項の内容を学習すること</p> <p>10 社会的養護① 施設養護について講義し、今日的課題についてディスカッションする 学習課題 復習：講義の内容を振り返って理解を深めておくこと 予習：参考書等で関連事項の内容を学習すること</p> <p>11 社会的養護② 施設養護に関するテレビ番組を鑑賞し、感想や意見を交換する 学習課題 復習：講義の内容を振り返って理解を深めておくこと 予習：参考書等で関連事項の内容を学習すること</p> <p>12 社会的養護③ 里親制度について講義し、今日的課題についてディスカッションする 学習課題 復習：講義の内容を振り返って理解を深めておくこと 予習：参考書等で関連事項の内容を学習すること</p>

	<p>1 3 社会的養護④ 里親制度に関するテレビ番組を鑑賞し、感想や意見を交換する</p> <p>学習課題 復習：講義の内容を振り返って理解を深めておくこと 予習：レポート作成の準備をすること</p> <p>1 4 社会的養護⑤ 社会的養護をテーマにレポートを作成し提出する</p> <p>学習課題 復習：これまでの講義の内容を再度振り返って理解を深めておくこと 予習：まとめの発表を準備すること</p> <p>1 5 まとめ 子ども家庭福祉の今日的課題について論じ、学習したことをどのように実践に活かしているか発表する</p> <p>学習課題 復習：発表の内容を振り返って理解を深めておくこと 予習：</p>
授業形態	講義
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>①子どもの貧困について説明できる。 ②児童虐待について説明できる。 ③社会的養護について説明できる。 ④子ども家庭福祉の今日的課題について具体的に論ずることができる。 ⑤子ども家庭福祉の今日的課題を意識して保育実践に活かすことができる。</p> <p>子どもの貧困、児童虐待、社会的養護という3つのテーマを柱に講義とディスカッションを行い、それぞれのテーマ毎に提出を求めるまとめのレポートで評価する。</p> <p>①達成目標に関する理解度を3本のレポートで評価する（60%） ②参加意欲（40%）</p>
教科書・参考書	必要な資料については、授業にてプリントを配布する。
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業時間前後に教室で質問を受け付ける。
備考・メッセージ	子どもの福祉に関する報道等へ常に関心を向けてほしい。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位	選択
担当教員			
吉田 美恵子			

講義概要	保育所・幼稚園・認定こども園における保育に関わり、子どもの姿を通して保育のあり方を考察する。園・保育者・家庭・地域の協力体制のなかで自己の役割を明確にし、責任感を持って保育にあたり、インターンシップの記録の意義と重要性を理解する		
授業計画	1回	インターンシップについて インターンシップと保育者としての責任 記録の重要性 学習課題 復習： 予習：実習における保育記録について	
	2回	幼児理解と記録の重要性 保育者の姿勢と関わりの視点 学習課題 復習：インターンシップ記録のねらい設定 予習：修了研究との関連と記録の視点	
	3回	地域交流 子育て支援（親子交流・ステージ発表・準備） 学習課題 復習：役割の把握とステージ発表の流れの確認 予習：子どもを意識したステージでの表現の方法	
	4回	子育ての現状 社会の変化と保育・教育施設 学習課題 復習：地域交流を通して学んだことの整理 予習：ステージでのイメージを持ち、役になりきって表現する	
	5回	倉橋理論 倉橋惣三の生涯 学習課題 復習：地域交流の意義を振り返る 予習：倉橋惣三を調べる	
	6回	倉橋理論 「育ての心」「子ども賛歌」を通して 学習課題 復習：倉橋惣三についてまとめる 予習：育ての心・子ども賛歌を読む	
	7回	保育の展開と工夫 遊びの予測に視点をおいて 学習課題 復習：倉橋理論からの子どにとってふさわしい生活をまとめる 予習：インターンシップでの遊びの事例を選択	
	8回	保育の展開と工夫 異年齢交流に視点をおいて 学習課題 復習： 予習：	
	9回	保育内容における遊びの意味 保育の形態と子どもの主体的な活動 学習課題 復習：遊びの事例の考察 予習：様々な保育の形態を調べる	
	10回	保育内容における遊びの意味 遊びの構造について 学習課題 復習： 予習：	
	11回	保育内容における遊びの意味 幼児教育における遊びの史的源流 学習課題 復習：主体的な子どもの遊びから何が育っているのかを考察する 予習：文化の中の子ども	
	12回	保育の中で見る子どもの発達	

	<p>子どもを観る→見分ける→見つめる→見極める</p> <p>学習課題 復習： 予習：</p> <p>1 3回 保育の中で見る子どもの発達</p> <p>実践例をもとに省察とトークセッション</p> <p>学習課題 復習：実践例をカテゴリーで分類 予習：自身の保育観をまとめる</p> <p>1 4回 環境の構成</p> <p>子どもを取り巻く環境 人的・物的・空間的（時間）</p> <p>学習課題 復習：子どもの観かたと保育者の役割について 予習：子どもを取り巻く環境について調べる</p> <p>1 5回 インターンシップ記録の内容分析</p> <p>実態把握と今後の課題抽出</p> <p>学習課題 復習：インターンシップの環境について 予習：インターンシップ記録の整理</p>
授業形態	演習
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>①インターンシップについて理解する</p> <p>②記録の大切さと重要性を理解し、実践記録をつける</p> <p>③保育者の姿勢と関わりの視点を明確にする</p> <p>④保育理論をもとに保育実践を検証する</p> <p>⑤今日的话题や情報をもとに保育者の役割を明確にする</p>
教科書・参考書	<p>テキスト：保育用語辞典及び関連資料を適宜活用する</p> <p>参考書：『子どもに生きた人・倉橋惣三』 森上史郎 著 フレーベル館</p> <p>『乳幼児期における遊び』 O.N. サラチョ・B スポデック 共編著 培風館</p>
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業後PM6:00から可能。実習巡回・会議の他は随時対応する
備考・メッセージ	インターンシップ記録は毎月末に提出

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位	卒業：選択 幼一免：選択
担当教員			
松井 由美子			

講義概要	<p>①乳幼児の発達めやすを知る。親子の触れ合いについて深める。乳幼児健診について体験する。</p> <p>②自分について知る。他者と自己を見つめる機会を深める。自己解放できるゲーム等を体験する。</p> <p>③「あそび」の基本要素について知る。「あそび」が育む「五感力」の研究を深める。「食育」の体験にもつなげる。</p> <p>④「あそび」の道筋について知る。「あそび」の接続について深める。考えた「あそび」を体験する。</p> <p>⑤乳幼児施設と小学校施設等の違いを知る。保幼小連携について考えて見る。</p>
授業計画	<p>1 生活科とは 求められる経験と生命の尊重</p> <p>2 乳幼児の成長 主体的な体験の場からの学び 昆虫飼育</p> <p>3 乳幼児の成長 主体的な体験の場からの学び（ツインズちゃん 子育て広場等） 昆虫飼育</p> <p>4 表現の過程 描くことは運動機能の発達と自己表現 昆虫飼育</p> <p>5 表現の過程 イメージの共有から共同的な遊びへ 昆虫飼育</p> <p>6 表現の過程 イメージの共有から共同的な遊びへ 昆虫飼育</p> <p>7 あそびの基本要素 室内あそび ヒヤシンス水栽培 昆虫飼育</p> <p>8 あそびの基本要素 戸外あそび ヒヤシンス水栽培 昆虫飼育</p> <p>9 あそびの基本要素（学び） 遊びが育む問題解決力 ヒヤシンス水栽培</p> <p>10 あそびの道筋 感じる、気付き ヒヤシンス水栽培</p> <p>11 あそびの道筋 考える、試す ヒヤシンス水栽培</p> <p>12 あそびの道筋 経験を重ねる、納得する ヒヤシンス水栽培</p> <p>13 あそびの道筋 経験を重ねる、納得する（食育から） ヒヤシンス水栽培</p> <p>14 小学校との連携 保幼小連携のプログラムを経験する ヒヤシンス水栽培</p> <p>15 生活科とは 求められる経験と生命の尊重（評価と考察）</p>
授業形態	講義
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>①乳幼児の心と身体の成長の発達を理解する。</p> <p>②自分と家族、自分と他者について考えて関わる事ができる。</p> <p>③自然とふれ合う中で感知する面白さや五感力を高めることを理解する。</p> <p>④気付きを深める内容を通して、乳幼児期に知的探究心を育み教育方法を試行することができる。</p> <p>⑤「学びの芽生え」が保幼小連携につながる事を習得する。</p> <p>課題レポート、ディスカッションの内容を総合して評価する。</p> <p>課題レポート（50%）、ディスカッションの内容（50%）</p>

教科書・参考書	参考書：保幼小連携カリキュラム（佐世保市） 遊びは人間行動のプラモデル？ 子育て情報誌・ふれあい（佐世保市） 小川純正
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業の前後で対応します。
備考・メッセージ	【準備学習（自主学習）】次回の講義内容を予習し、保育実践における自らの疑問や課題を明らかにしておくこと

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1単位	選択
担当教員			
友廣 憲子			

講義概要	2年間の「音楽教育」を受講したことを土台として、保育者としての更に磨きをかける技術を身に付ける。保育現場で活用できる質の高い音楽力を習得する。
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション 音楽研究Ⅱの概要説明 学習課題 復習：本日の講義の復習をする 予習：ピアノ課題に取り組む</p> <p>2回目 応用ソルフェージュ①とピアノ 学習課題 復習：本日の講義の復習をする 予習：ピアノ課題に取り組む</p> <p>3回目 応用ソルフェージュ②とピアノ 学習課題 復習：本日の講義の復習をする 予習：ピアノ課題に取り組む</p> <p>4回目 応用ソルフェージュ③とピアノ 学習課題 復習：本日の講義の復習をする 予習：ピアノ課題に取り組む</p> <p>5回目 応用ソルフェージュ④とピアノ 学習課題 復習：本日の講義の復習をする 予習：ピアノ課題に取り組む</p> <p>6回目 応用ソルフェージュ⑤とピアノ 学習課題 復習：本日の講義の復習をする 予習：ピアノ課題に取り組む</p> <p>7回目 応用ソルフェージュ⑥とピアノ 学習課題 復習：本日の講義の復習をする 予習：ピアノ課題に取り組む</p> <p>8回目 応用ソルフェージュ⑦とピアノ 学習課題 復習：本日の講義の復習をする 予習：ピアノ課題に取り組む</p> <p>9回目 応用ソルフェージュ⑧とピアノ 学習課題 復習：本日の講義の復習をする 予習：ピアノ課題に取り組む</p> <p>10回目 応用ソルフェージュ⑨とピアノ 学習課題 復習：本日の講義の復習をする 予習：ピアノ課題に取り組む</p> <p>11回目 応用ソルフェージュ⑩とピアノ 学習課題 復習：本日の講義の復習をする 予習：ピアノ課題に取り組む</p> <p>12回目 応用ソルフェージュ⑪とピアノ 学習課題 復習：本日の講義の復習をする 予習：ピアノ課題に取り組む</p> <p>13回目 応用ソルフェージュ⑫とピアノ 学習課題 復習：本日の講義の復習をする 予習：ピアノ課題に取り組む</p> <p>14回目 応用ソルフェージュ⑬とピアノ 学習課題 復習：本日の講義の復習をする 予習：ピアノ課題に取り組む</p> <p>15回目 応用ソルフェージュ⑭とピアノ 学習課題 復習：本日の講義の復習をする 予習：ピアノ課題に取り組む</p>
授業形態	演習
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>①ソルフェージュの応用を修得できる。</p> <p>②ピアノの様々な時代の作品を演奏することができる。</p> <p>③視唱・視奏を行うことができる。</p> <p>④ピアノ連弾を通して、息を合わせながら音楽を創り上げることができる。</p> <p>⑤今まで演奏していない童謡の弾き歌いを10曲演奏することができる。</p>
教科書・参考書	必要に応じてプリントを使用する。
履修条件	音楽研究Ⅰを履修していること
履修上の注意	出された課題については練習をしてくること。
オフィスアワー	授業時間前後に教室で質問を受け付ける。
備考・メッセージ	90分の授業の内、45分間をピアノ学習とする。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 学年	2 単位	必修
担当教員			
座間味 愛理			

講義概要	ある幼児が大人の真似をして初めてガムを口に放り込んだ。次の瞬間、急に「寒い寒い！クーラー止めて！」と訴えた。ガムはクールミント味だったのだ。私達は子どもの“初めて”に遭遇する度に、子どもらしい世界に感動し、人間について新たな理解を得ることができる。本授業では、教育者という立場から発達心理学、教育心理学の視点を用いて子どもを理解し、その理解を基に子ども達の世界を広げる役割を取る際のヒントを得ることを目的とする。その方法として、意欲的に学びを引き出すために活用できる心理学的視点について発表・ディスカッションを取り入れる。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 学習課題 復習：子どもはいつから教育すべき？ 心理学の中での学習に関する考え方 予習：保育の心理学Ⅰ・Ⅱの資料</p> <p>第2回 赤ちゃんは何でも知っている？ 学習課題 復習：赤ちゃんの知能—その測定方法— 予習：保育の心理学Ⅰ・Ⅱの資料</p> <p>第3回 歩くという不思議 学習課題 復習：運動発達と学習 予習：保育の心理学Ⅰ・Ⅱの資料</p> <p>第4回 誰が信頼できるの？ 学習課題 復習：人間関係の発達と学習 予習：保育の心理学Ⅰ・Ⅱの資料</p> <p>第5回 自我の芽生えと感情発達 学習課題 復習：自己鏡映認知、自己意識の発達、感情の発達 予習：保育の心理学Ⅰ・Ⅱの資料</p> <p>第6回 他者の心の理解 学習課題 復習：「心の理論」の発達 予習：保育の心理学Ⅰ・Ⅱの資料</p> <p>第7回 心理学×集団療法① 学習課題 復習：心理学の視点を用いたワークを企画する 予習：保育の心理学Ⅰ・Ⅱの資料 運動発達</p> <p>第8回 意欲的に学びを引き出す①—運動— 学習課題 復習：学生プレゼンの発表 例) じゃんけん動作を可能にする運動発達 ディスカッション、教員の補足 予習：ことばの発達</p> <p>第9回 意欲的に学びを引き出す②—ことば— 学習課題 復習：学生プレゼンの発表 例) 言い間違い、吃音 ディスカッション・教員の補足 予習：認知発達</p> <p>第10回 意欲的に学びを引き出す③—認知— 学習課題 復習：学生プレゼンの発表 例) 子どもの嘘 ディスカッション・教員の補足 予習：自己制御の発達</p> <p>第11回 意欲的に学びを引き出す④—自己コントロール— 学習課題 復習：学生プレゼンの発表 例) アンガーマネージメント ディスカッション・教員の補足 予習：道徳性の発達</p> <p>第12回 意欲的に学びを引き出す⑤—道徳性・思いやり— 学習課題 復習：学生プレゼンの発表 例) 道徳性の多様性 国際比較研究 ディスカッション・教員の補足 予習：文字の読み書きの発達</p> <p>第13回 意欲的に学びを引き出す⑥—文字の読み書き— 学習課題 復習：学生プレゼンの発表 例) 子どもの鏡文字 ディスカッション・教員の補足 予習：動機づけの発達</p> <p>第14回 意欲的に学びを引き出す⑦—やる気— 学習課題 復習：学生プレゼンの発表 例) 動機づけの種類 ディスカッション・教員の補足 予習：これまでの授業のまとめ</p> <p>第15回 心理学×集団療法② 学習課題 復習：心理学の視点を用いたワークを実践する</p>

授業形態	講義
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	①人の心身の発達に関する確かな知識を身につける ②人の学習過程に関する確かな知識を身につける ③保育現場で経験した出来事を考察する際に、その手がかりとして心理学的基礎知識を用いられる力を養う ④習得した知識をもとに、実践の保育・教育現場に役立つ子ども理解ができる力を身につける ⑤発達心理学と教育心理学の視点を活かして子どもと関わる力を身につける
教科書・参考書	
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業の前後で対応します。
備考・メッセージ	*学生プレゼンでは、テーマに基づいた調査研究、研究方法、データを紹介しながら問題設定と関連づけること。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位	卒業：必修 幼一免：選択
担当教員			
朝野 卓也			

講義概要	学んだ知識が実践の場である幼稚園・保育所・認定こども園等でどのように生かされているのか、施設見学やヒアリングも織り込みつつ考察する。
授業計画	<p>1 オリエンテーション 今後の授業の方向付け</p> <p>2 保育制度の確認 幼稚園と保育所の存在意義と役割の再考</p> <p>3 園経営の視点1 園経営方針と経営計画</p> <p>4 園経営の視点2 クラス運営と園務のかかわり</p> <p>5 園経営の視点3 保育課程の編成と実践</p> <p>6 保育制度の変遷1 制度改革と施策の展開</p> <p>7 保育制度の変遷2 認定こども園制度</p> <p>8 保育制度の変遷3 子ども・子育て支援制度</p> <p>9 施設見学1 幼稚園</p> <p>10 施設見学2 保育所</p> <p>11 施設見学3 認定こども園</p> <p>12 施設見学4 小学校</p> <p>13 ヒアリング1 子育て支援サークル代表及び保護者</p> <p>14 ヒアリング2 行政（県又は市）担当者</p> <p>15 子育て環境の変化まとめ 家庭、地域社会との連携も踏まえて</p>
授業形態	講義
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>①職業人である保育者として身につけておくべき専門知識を理解する</p> <p>②保育施設の組織人として求められる素養を理解する</p> <p>③成熟社会の進展を背景にして少子化が急激に進む今日、複雑多様化する子育て環境のあるべき姿を制度改革の観点から考察する</p> <p>④同じく、保育施設の存在意義について考察する</p> <p>⑤同じく、家庭・地域社会との連携を考察する</p> <p>試験の成績とレポート内容、研究意欲等で評価をおこなう。</p>
教科書・参考書	<p>テキスト：なし</p> <p>参考書：『保育における感情労働』 諏訪きぬ 北大路書房 2011. 1 『保育園義務教育化』 古市憲寿 小学館 2015. 7 『最新保育資料集2017』 ミネルヴァ書房 2017. 4</p>
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業の前後で対応します。
備考・メッセージ	【準備学習（自主学習）】 次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 学年	2 単位	必修
担当教員			
藤野 正和			

講義概要	<p>①子どもたちの人間関係の発達について整理する ②特別な配慮を要する子どもたちに対する支援について学ぶ ③多様な視点から子どもたちの発達について考えていく力を身につける ④保護者に対するかかわりについて整理し、より円滑に関係性を築いていく力を身につける ⑤保育者としての自らのかかわりについて振り返る力を身につける</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 学習課題 復習：授業で配られたレジュメや課題に取り組む 予習：シラバスに読んでおく</p> <p>第2回 こどもの対人関係の発達について① 学習課題 復習：授業で配られたレジュメや課題に取り組む 予習：こどもの対人関係の発達について事前学習をしておく</p> <p>第3回 こどもの対人関係の発達について② 学習課題 復習：授業で配られたレジュメや課題に取り組む 予習：こどもの対人関係の発達について事前学習をしておく</p> <p>第4回 保育場面での気になるこどもについて① 学習課題 復習：授業で配られたレジュメや課題に取り組む 予習：保育場面での気になるこどもについて事前学習をしておく</p> <p>第5回 保育場面での気になるこどもについて② 学習課題 復習：授業で配られたレジュメや課題に取り組む 予習：保育場面での気になるこどもについて事前学習をしておく</p> <p>第6回 保育場面での気になるこどもについて③ 学習課題 復習：授業で配られたレジュメや課題に取り組む 予習：事例の担当者は事例について規定の様式にしたがってまとめる</p> <p>第7回 保育場面で見られる気になるこどもについての事例検討① 学習課題 復習：授業で配られたレジュメや課題に取り組む 予習：事例の担当者は事例について規定の様式にしたがってまとめる</p> <p>第8回 保育場面で見られる気になるこどもについての事例検討② 学習課題 復習：授業で配られたレジュメや課題に取り組む 予習：事例の担当者は事例について規定の様式にしたがってまとめる</p> <p>第9回 保育場面で見られる気になるこどもについての事例検討③ 学習課題 復習：授業で配られたレジュメや課題に取り組む 予習：事例の担当者は事例について規定の様式にしたがってまとめる</p> <p>第10回 保育場面で見られる気になるこどもについての事例検討④ 学習課題 復習：授業で配られたレジュメや課題に取り組む 予習：事例の担当者は事例について規定の様式にしたがってまとめる</p> <p>第11回 保育場面で見られる気になるこどもについての事例検討⑤ 学習課題 復習：授業で配られたレジュメや課題に取り組む 予習：事例の担当者は事例について規定の様式にしたがってまとめる</p> <p>第12回 保育場面で見られる気になるこどもについての事例検討⑥ 学習課題 復習：授業で配られたレジュメや課題に取り組む 予習：事例の担当者は事例について規定の様式にしたがってまとめる</p> <p>第13回 障害のあるこどもについての事例検討① 学習課題 復習：授業で配られたレジュメや課題に取り組む 予習：事例について規定の様式にしたがってまとめる</p> <p>第14回 障害のあるこどもについての事例検討② 学習課題 復習：授業で配られたレジュメや課題に取り組む 予習：事例について規定の様式にしたがってまとめる</p> <p>第15回 まとめ 学習課題 復習：授業全体を振り返り、疑問点については空き時間等で質問を行う。 予習：授業全体を振り返り、疑問点等をピックアップしておく</p>
授業形態	講義・演習
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>①子どもたちの人間関係の発達について説明できる ②特別な配慮を要する子どもたちに対する支援について討論することができる ③多様な視点から子どもたちの発達について考えて討論することができる ④保護者に対するかかわりについて整理して討論することができる ⑤保育者としての自らのかかわりについて振り返ることができる</p>
教科書・参考書	必要に応じてレジュメ等を使用する
履修条件	
履修上の注意	

オフィスアワー	授業時間前後や教員の空き時間等で質問を受け付ける
備考・メッセージ	少人数での講義になるので、積極的に質問を行ってください

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位	選択
担当教員			
小嶋栄子			

講義概要	<p>子どもが親から離れて社会の中で生きていくためには、しっかりしたコミュニケーション能力を育てておかなければならない。その援助をするために、本科目では「子どもはどのようにして言葉を獲得していくのか」、また「それを支える保育者はどのような環境を用意し、どのようにかかわっていくのか」ということについて学習していく。</p> <p>授業は毎回、テキストの内容を学生たちが発表していく形式で進める。その中で、学生たちがインターンシップ先の職場で実際に体験した事例なども取り入れながら、生の子どもの言葉に触れ、子どもが人の話を聴いたり、言葉で表現したりする力を育てるための指導法も学習していく。</p>
授業計画	<p>1 学習の前に1 保育内容「言葉」を学ぶ：オリエンテーション。 日本語プレースメントテスト</p> <p>学習課題 復習：プレースメントテストでできなかった部分の見直し 予習：「言葉をめぐるワークショップ」担当部分の発表準備</p> <p>2 学習の前に2 言葉をめぐるワークショップ</p> <p>学習課題 復習：「言葉をめぐるワークショップ」全体の見直し 予習：「言葉の育つ道すじ」担当部分の発表準備</p> <p>3 言葉の育ちと保育1 言葉の育つ道すじ</p> <p>学習課題 復習：「言葉の育つ道すじ」全体の見直し 予習：「言葉の前の言葉」担当部分の発表準備</p> <p>4 言葉の育ちと保育2 言葉の前の言葉</p> <p>学習課題 復習：「言葉の前の言葉」全体の見直し 予習：「1つの言葉で」担当部分の発表準備</p> <p>5 言葉の育ちと保育3 1つの言葉で</p> <p>学習課題 復習：「1つの言葉で」全体の見直し 予習：「人とつながる言葉（1）」担当部分の発表準備</p> <p>6 言葉の育ちと保育4 人とつながる言葉（1）</p> <p>学習課題 復習：「人とつながる言葉（1）」全体の見直し 予習：「人とつながる言葉（2）」担当部分の発表準備</p> <p>7 言葉の育ちと保育5 人とつながる言葉（2）</p> <p>学習課題 復習：「人とつながる言葉（2）」全体の見直し 予習：「人とつながる言葉（3）」担当部分の発表準備</p> <p>8 言葉の育ちと保育6 人とつながる言葉（3）</p> <p>学習課題 復習：「人とつながる言葉（3）」全体の見直し 予習：「言葉で考える」担当部分の発表準備</p> <p>9 言葉の育ちと保育7 言葉で考える</p> <p>学習課題 復習：「言葉で考える」全体の見直し 予習：「言葉で表現する：遊びから生まれる表現」担当部分の発表準備</p> <p>10 言葉の育ちと保育8 言葉で表現する：遊びから生まれる表現</p> <p>学習課題 復習：「言葉で表現する：遊びから生まれる表現」全体の見直し 予習：「言葉でのかわりに配慮を必要とする子ども」担当部分の発表準備</p> <p>11 言葉の育ちと保育9 言葉でのかわりに配慮を必要とする子ども</p> <p>学習課題 復習：「言葉でのかわりに配慮を必要とする子ども」全体の見直し 予習：「言葉をめぐる相談の実際と対応」担当部分の発表準備</p> <p>12 言葉の育ちと保育10 言葉をめぐる相談の実際と対応</p>

	<p>学習課題 復習：「言葉をめぐる相談の実際と対応」全体の見直し 予習：「幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域『言葉』」担当部分の発表準備</p> <p>1.3 言葉の育ちを考える背景1 幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「言葉」</p> <p>学習課題 復習：「幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域『言葉』」全体の見直し 予習：「児童文化財で広がる世界」担当部分の発表準備</p> <p>1.4 言葉の育ちを考える背景2 児童文化財で広がる世界</p> <p>学習課題 復習：「児童文化財で広がる世界」全体の見直し 予習：「子どもの言葉に心を寄せて」担当部分の発表準備</p> <p>1.5 言葉の育ちを考える背景3 子どもの言葉に心を寄せて プレースメントテスト</p> <p>学習課題 復習：「子どもの言葉に心を寄せて」全体の見直し プレースメントテストでできなかった部分の見直し 予習：課題レポートの準備</p>																						
授業形態	演習																						
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>評価の観点</th> <th>評価手段・方法</th> <th>評価比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①関心・意欲 態度</td> <td>子どもと保育者の対人関係構築としての言葉の意義を理解する。</td> <td>授業態度</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>②思考・判断</td> <td>子どもの言葉の獲得と発達の段階との関を理解する。</td> <td>レポート</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">③技能・表現</td> <td rowspan="2">子どもの言葉を育てる環境づくりの方法を理解する。 子どもの言葉を育てる活動の指導法を習得する。</td> <td>授業態度</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>④知識・理解</td> <td>ヒトの言語の基本的特性を修得する。</td> <td>レポート</td> <td>20%</td> </tr> </tbody> </table>		評価の観点	評価手段・方法	評価比率	①関心・意欲 態度	子どもと保育者の対人関係構築としての言葉の意義を理解する。	授業態度	20%	②思考・判断	子どもの言葉の獲得と発達の段階との関を理解する。	レポート	20%	③技能・表現	子どもの言葉を育てる環境づくりの方法を理解する。 子どもの言葉を育てる活動の指導法を習得する。	授業態度	20%	レポート	20%	④知識・理解	ヒトの言語の基本的特性を修得する。	レポート	20%
	評価の観点	評価手段・方法	評価比率																				
①関心・意欲 態度	子どもと保育者の対人関係構築としての言葉の意義を理解する。	授業態度	20%																				
②思考・判断	子どもの言葉の獲得と発達の段階との関を理解する。	レポート	20%																				
③技能・表現	子どもの言葉を育てる環境づくりの方法を理解する。 子どもの言葉を育てる活動の指導法を習得する。	授業態度	20%																				
		レポート	20%																				
④知識・理解	ヒトの言語の基本的特性を修得する。	レポート	20%																				
教科書・参考書	テキスト：『演習保育内容言葉』戸田雅美編著 2010 建帛社 参考書：随時指示する。																						
履修条件																							
履修上の注意	次回の授業範囲（特にテキストの事例部分）を予習し、わかりやすい発表ができるようにしておくこと。																						
オフィスアワー	授業の前後で対応します。																						
備考・メッセージ																							

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前後期	1年	2単位	卒業：選択 幼一免：必修
担当教員			
新井 悦子			

講義概要	児童文化の学習を通して、前半は講義、後半は実践を中心に進めていく。講義では積極的な発言が期待される。実践としては地域での児童文化活動にボランティアとして参加し、絵本の読み語りなどを行う。地域の人々との交流を通じ、人間関係力をつけることも目指したい。
授業計画	<p>1 オリエンテーション 授業のねらい・進め方、評価についての説明 学習課題 復習： 予習：</p> <p>2 児童文化のあゆみ 児童文化の歴史の変遷 学習課題 復習： 予習：</p> <p>3 児童文化のあゆみ 児童文化の現在 学習課題 復習： 予習：</p> <p>4 子どもを取り巻く環境① 子どもを取り巻く社会の変化 学習課題 復習： 予習：</p> <p>5 子どもを取り巻く環境② 児童文化の果たす役割 学習課題 復習： 予習：</p> <p>6 子どもの遊びと文化 児童文化財の研究（絵本研究） 学習課題 復習： 予習：</p> <p>7 子ども遊びと文化 児童文化財の研究（おもちゃの文化） 学習課題 復習： 予習：</p> <p>8 子どもの遊びと文化 児童文化財の研究（子どもと伝承遊び） 学習課題 復習： 予習：</p> <p>9 児童文化の実践 地域での実践活動①（子どもと言葉・絵画表現） 学習課題 復習： 予習：</p> <p>10 児童文化の実践 地域での実践活動②（子どもと言葉・絵画表現） 学習課題 復習： 予習：</p> <p>11 児童文化の実践 地域での実践活動③（子どもと言葉・絵画表現） 学習課題 復習： 予習：</p> <p>12 児童文化の実践 地域での実践活動④（子どもと絵本） 学習課題 復習： 予習：</p> <p>13 児童文化の実践 地域での実践活動⑤（子どもと絵本） 学習課題 復習： 予習：</p> <p>14 児童文化の実践 地域での実践活動⑥（子どもと絵本） 学習課題 復習： 予習：</p> <p>15 実践報告会 レポートのまとめと実践報告 学習課題 復習： 予習：</p>

授業形態	演習
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>①現代の子どもを取り巻く環境や実態を把握する。 ②児童文化の歴史を概観し、児童文化財のもつ重要性について理解する。 ③子どもの人間関係を広げる伝承遊びや絵本、紙芝居、自然等を題材とした子どもの文化を体験する。 ④子どもと地域への児童文化財の実践活動を行う。 ⑤実践活動への計画・取り組み・成果等についてレポートを作成する。</p> <p>前半では積極的なディスカッションへの参加を評価し、後半では地域の文化活動への実践の内容・態度、および振り返りの課題レポートで評価する。</p> <p>ディスカッション内容（30%）、実践活動の内容（50%）、課題レポート（20%）</p>
教科書・参考書	<p>テキスト：必要に応じて講義用テキストを作成する。 参考書：『ことばと表現力を育む 児童文化』 川勝泰介・浅岡靖央・生駒幸子 編著 萌文書林</p>
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業の前後で質問等に対応します
備考・メッセージ	【準備学習（自主学習）】 読み語りなどの練習が必要となる。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位	選択
担当教員			
吉田 美恵子			

講義概要	保育の実践・記録を行う中で、反省・評価を丹念に分析する。保育の構造を理解し、保育者としての適切な援助の仕方や配慮を学習していく。又、手作りの教材を保育に活かすタイミング等を習得する。		
授業計画	1回	課題の確認 インターンシップにおける自己課題の確認 学習課題 復習：前期のインターンシップ記録の読み返し 予習：自己課題の抽出	
	2回	行事と子どものかかわり 保育行事を見直す視点 学習課題 復習：インターンシップ記録の中の行事を選択しておく 予習：運動会などのプログラムの内容をみしておく	
	3回	行事と子どものかかわり 子どもの主体的な活動の場となる行事計画 学習課題 復習：行事の中の保育者の援助 予習：行事のテーマと主体的な子どもの活動場面の抽出	
	4回	「文化」と人間形成 文化の捉え方（見える文化と見えない文化） 学習課題 復習：運動会の意義について 予習：伝承遊びの体験について	
	5回	子どもの文化と遊び 発達と文化が関わり合う保育と保育者の役割 学習課題 復習：伝承遊び、昔遊びの体験と子どもへの影響 予習：『子どもの発達と文化のかかわり』参考書資料を読む	
	6回	保育に活かす手作り教材 インターンシップや保育に活かす教材作成 学習課題 復習：昔遊びから変化させた手作り教材 予習：直線縫い、玉止めなど基本の練習	
	7回	保育に活かす手作り教材 インターンシップや保育に活かす教材作成 学習課題 復習：手作り教材作成 予習：手作り教材完成に向けて	
	8回	手作り教材の保育効果 保育の流れと保育実践 学習課題 復習：手作り教材と活用方法 予習：保育実践へ向けての準備	
	9回	子どもの安定した生活 デイリープログラムに基づく実践と考察 学習課題 復習：インターンシップ記録の読み返し 予習：子どもにとって安心できる1日の生活の流れとは	
	10回	創作話 子どもの心を豊かにする童話・素話 学習課題 復習：子どもが興味関心を持つ童話の選択 予習：連想・イメージを豊かにして素話の練習	
	11回	観察と記録の工夫 自然・参加・組織的・実験的観察法	

	<p>学習課題 復習：素話をきいて感想レポートを書く 予習：インターンシップ記録の分類</p> <p>1 2回 望ましい保育者像</p> <p>人間性と専門性</p> <p>学習課題 復習：保育場面における言葉かけや援助を再考 予習：保育者として大切な要素を考える</p> <p>1 3回 論説内容の把握</p> <p>論説を読み概要と自身の意見を発表する</p> <p>学習課題 復習：子どもの主体的な活動場面と育ちについて 予習「子どもの自己肯定感を育む保育実践について」の各論説を読む</p> <p>1 4回 保育の評価</p> <p>子どもの成長の評価と保育者の自己評価</p> <p>学習課題 復習：インターンシップにおける自己評価 予習：インターンシップにおける保育の目標の再確認</p> <p>1 5回 インターンシップ記録の内容分析</p> <p>新たな課題の抽出</p> <p>学習課題 復習：インターンシップ記録の記述内容を領域別にチェック 予習：インターンシップ記録の効果と改善について</p>
授業形態	演習
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>①インターンシップについて自己課題を明確にする</p> <p>②子どもの姿をもとに保育の創意・工夫をする</p> <p>③保育職の現状や役割を把握する</p> <p>④保育と文化の関係について理解する</p> <p>⑤保育実践を丁寧に考察し、反省・評価を行い改善することができる</p>
教科書・参考書	<p>テキスト：関連資料を適宜活用する</p> <p>参考書：『保育者の地平』 津守真 著 ミネルヴァ書房 『子どもの発達と文化の関わり』 小田豊・森真理 編著 光生館</p>
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	実習巡回・会議などを除き授業後PM6:00～随時対応する
備考・メッセージ	個人用の小さい裁縫箱セットの準備

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1	選択
担当教員			
中尾 健一郎			

講義概要	<p>①子どもの体力と健康の関係について理解する 運動能力と体力の概念について理解する 運動能力を構成する能力について理解する</p> <p>②幼児期までの運動発達について理解する 幼児期から児童期にかけての運動発達について理解する 青年期の運動発達について理解する</p> <p>③幼児期運動指針の意義について理解する 幼児期運動指針のポイントについて理解する 指針推進における保育者と家庭の連携について理解する</p> <p>④運動発達をとらえる方法について理解する 運動能力の測定・評価について理解する 測定結果の活用方法について理解する</p> <p>⑤遊びとしての運動指導の方針について理解する 運動指導における保育者の援助の在り方について理解する 運動遊びを企画する際の留意点について理解する</p>
授業計画	<p>1 オリエンテーション 授業の進め方について学び、これまでの運動指導場面での課題を振り返る</p> <p>学習課題 復習：運動指導場面での課題をまとめる 予習：幼児期の運動能力、体力の捉え方、運動発達の特徴について調べる</p> <p>2 幼児期の運動能力、体力の捉え方と運動発達の特徴についてについて 運動能力、体力の概念を整理し、運動発達の段階について各期の特徴を学ぶ</p> <p>学習課題 復習：配布資料を参考に各概念の整理をする 予習：遊びと運動の関係について調べる</p> <p>3 遊びとしての運動の重要性について 遊びとしての運動指導の基本方針について学ぶ</p> <p>学習課題 復習：遊びとしての運動指導の在り方についてまとめる 予習：運動発達に影響を与える環境要因について調べておく</p> <p>4 運動発達に関係する園環境と家庭環境について 運動発達と環境要因を構造的に把握する</p> <p>学習課題 復習：運動発達に影響を与える要因についてまとめる 予習：運動発達の時代変化について調べておく</p> <p>5 幼児期の運動発達の時代変化について 運動発達に影響を与える要因について学ぶ</p> <p>学習課題 復習：運動発達に影響を与える要因を構造的にまとめておく 予習：運動発達の特徴とそれに応じた指導法について調べる</p> <p>6 幼児期の運動発達の特徴に応じた運動指導の在り方について 遊びとしての運動指導のポイントを学ぶ</p> <p>学習課題 復習：運動遊び指導のポイントについてまとめる 予習：運動指導における保育者の役割について調べておく</p> <p>7 「遊びの中で進んで運動をする」という考え方について 運動遊びの指導における保育者の役割について学ぶ</p> <p>学習課題 復習：運動遊び指導における保育者の役割についてまとめる 予習：用具を工夫した遊びの構成を考えてみる</p> <p>8 進んで運動する子どもを育てる保育と援助について① 用具を工夫して具体的に場面を想定しながら援助法について考えてみる</p> <p>学習課題 復習：工夫して考えた運動遊びの構成をまとめておく 予習：遊具や自然環境を工夫した遊びの構成を考えてみる</p> <p>9 進んで運動する子どもを育てる保育と援助について② 遊具を工夫して具体的に場面を想定しながら援助法について考えてみる</p> <p>学習課題 復習：遊具を工夫した運動遊びの構成をまとめておく 予習：教科書様々な運動パターンを生み出す遊具・用具・自然環境の使い方を考えておく</p> <p>10 発達を支える多様な活動について① 用具・遊具を工夫して様々な運動のパターン引き出す方法を学ぶ</p> <p>学習課題 復習：遊具・用具を用いた様々な運動パターンを引き出す方法についてまとめる 予習：運動能力検査の方法を調べておく</p> <p>11 発達を支える多様な活動について② 自然環境を利用した様々な運動パターンを引き出す方法を学ぶ</p> <p>学習課題 復習：自然環境について活用できるものをまとめておく</p>

	<p>予習：解釈の仕方、日常の保育への活かし方について調べる</p> <p>1 2 運動指導の在り方について 様々な場面での指導・援助の在り方について学ぶ</p> <p>学習課題 復習：指導方法、援助の方法についてまとめておく 予習：幼児運動能力検査についてまとめておく</p> <p>1 3 幼児運動能力検査の結果の処理と解釈および日常の保育への活かし方について 検査を実践し、結果の処理と解釈の方法と検査結果を日常の保育に活かす方法について学ぶ</p> <p>学習課題 復習：検査結果を日常の保育に活かす方法についてまとめる 予習：これまで実践した運動遊びをアレンジして考えてみる</p> <p>1 4 運動遊びの企画 運動遊びを企画し、指導案を作成する</p> <p>学習課題 復習：指導案に基づいて運動遊びが実施できるようにイメージをもつ 予習：運動遊びの評価のポイントを調べておく</p> <p>1 5 運動遊びの発表 企画した運動遊びを発表し、評価する</p> <p>学習課題 復習：自己評価を行い、内容を振り返る 予習：</p>															
授業形態	演習															
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価比率</th> <th>評価の観点</th> <th>評価手段・方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>関心・意欲・態度 40%</td> <td>自ら運動に関心を持ち、幼児期の運動発達の特徴を理解しながら、子どもの健全な育ちに寄与することができる</td> <td>授業態度</td> </tr> <tr> <td>思考・判断 20%</td> <td>運動能力を客観的に評価する方法を学び、運動指導の問題点について指摘することができる</td> <td>課題レポート</td> </tr> <tr> <td>技術・表現 20%</td> <td>運動遊びにおける保育者の適切な援助の在り方について考えることができる。</td> <td>課題レポート</td> </tr> <tr> <td>知識・理解 20%</td> <td>子どもの発達段階に応じた運動遊びを企画することができる</td> <td>課題発表</td> </tr> </tbody> </table>	評価比率	評価の観点	評価手段・方法	関心・意欲・態度 40%	自ら運動に関心を持ち、幼児期の運動発達の特徴を理解しながら、子どもの健全な育ちに寄与することができる	授業態度	思考・判断 20%	運動能力を客観的に評価する方法を学び、運動指導の問題点について指摘することができる	課題レポート	技術・表現 20%	運動遊びにおける保育者の適切な援助の在り方について考えることができる。	課題レポート	知識・理解 20%	子どもの発達段階に応じた運動遊びを企画することができる	課題発表
評価比率	評価の観点	評価手段・方法														
関心・意欲・態度 40%	自ら運動に関心を持ち、幼児期の運動発達の特徴を理解しながら、子どもの健全な育ちに寄与することができる	授業態度														
思考・判断 20%	運動能力を客観的に評価する方法を学び、運動指導の問題点について指摘することができる	課題レポート														
技術・表現 20%	運動遊びにおける保育者の適切な援助の在り方について考えることができる。	課題レポート														
知識・理解 20%	子どもの発達段階に応じた運動遊びを企画することができる	課題発表														
教科書・参考書	教科書： 参考書：幼児期における運動発達と運動遊びの指導 杉原 隆・川邊貴子編著 ミネルヴァ書房 幼児期運動指針 文部科学省															
履修条件																
履修上の注意	実技の際は装飾品ははずし運動ができる服装を準備すること															
オフィスアワー	各授業の前後に質問を受け付ける															
備考・メッセージ																

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位	選択
担当教員			
吉田 美恵子			

講義概要	<p>幼児の発達や興味・関心、生活の流れへの理解を深めながら、幼児が充実感をもって行動できるようなカリキュラム作成をおこない、実践事例との考察や評価に基づき再構成していく過程を学習する。保育課程を作成していく中で発達の連続性や保育者としての役割・責務を把握していく。</p>		
授業計画	1回	<p>教育課程の変遷「幼稚園」</p> <p>「恩物」中心の保育～「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」</p> <p>学習課題 復習： 予習：告示化されている「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を読み解く</p>	2回
	2回	<p>保育課程の変遷「保育所」</p> <p>託児所の始まり～「保育所保育指針」告示化</p> <p>学習課題 復習： 予習：告示化されている「保育所保育指針」を読み解く</p>	3回
	3回	<p>教育課程編成の基本</p> <p>幼稚園教育要領における指導計画の位置付け</p> <p>学習課題 復習：「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を読み解く 予習：「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を読み解く</p>	4回
	4回	<p>保育課程編成の基本</p> <p>保育所保育指針における指導計画の位置付け</p> <p>学習課題 復習：告示化されている「保育所保育指針」を読み解く 予習：告示化されている「保育所保育指針」を読み解く</p>	5回
	5回	<p>J. デューイのカリキュラム論</p> <p>デューイスクールのカリキュラム（幼児の姿）</p> <p>学習課題 復習：カリキュラムの歴史的変遷 予習：J. デューイについて調べる</p>	6回
	6回	<p>カリキュラム編成の実際</p> <p>編成の手順・作成例（サンプル）考察</p> <p>学習課題 復習：指導計画の流れを把握する 予習：先輩が作成した保育課程を読む</p>	7回
	7回	<p>教育（保育）課程から指導計画へ</p> <p>長期の指導計画（年間指導計画）</p> <p>学習課題 復習：保育理念・保育方針・保育目標について 予習：保育課程から年間指導計画への流れ</p>	8回
	8回	<p>教育（保育）課程から指導計画へ</p> <p>長期の指導計画（期案・月案）</p> <p>学習課題 復習：年間指導計画の確認 予習：年間指導計画から期案・月案への流れ</p>	9回
	9回	<p>教育（保育）課程から指導計画へ</p> <p>短期の指導計画（インターンシップ記録からの考察）週案・日案</p> <p>学習課題 復習：期案・月案の確認 予習：期案・月案から週案・日案へ（インターンシップ記録からのねらいの設定について）</p>	10回
	10回	<p>模擬保育と反省・評価</p> <p>こどもの育ちを確かなものにする、創意工夫された指導計画立案と実践 反省・評価による指導計画改善</p>	

	<p>学習課題 復習：部分指導案記入・チェックシート 予習：部分指導案作成と模擬保育にむけて</p> <p>11回 認定こども園の保育計画</p> <p>認定こども園制度の内容と指導計画</p> <p>学習課題 復習：模擬保育の反省、計画改善 予習：1号・2号・3号認定のこどもの保育時間と内容の違い</p> <p>12回 保育課程作成</p> <p>こどもの年齢別担当 養護・教育・食育・支援教育を分担 保育課程内容をパソコン入力</p> <p>学習課題 復習：保育理念・保育方針・保育目標について 予習：こどもの年齢と発達</p> <p>13回 保育課程作成</p> <p>こどもの各年齢の記入内容における接続を考察 パソコン入力</p> <p>学習課題 復習：担当年齢記入の見直し 予習：次回の記入内容の検討</p> <p>14回 保育課程作成</p> <p>こどもの各年齢の記入内容における接続・学びの連続性を考察 パソコン入力</p> <p>学習課題 復習：担当年齢の記入の見直し 予習：次回の記入内容の検討</p> <p>15回 評価の意義と方法</p> <p>計画 ⇔ 実践 ⇔ 反省・評価 ⇔ 改善 の循環性を持って保育の質を向上する</p> <p>学習課題 復習：保育課程完成 予習：</p>
授業形態	講義
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>①教育・保育課程の変遷を理解する</p> <p>②教育・保育課程の構成を理解する</p> <p>③指導計画編成の手順を理解し作成することができる</p> <p>④こどもの発達を見通したカリキュラムの作成ができる</p> <p>⑤評価の意義と方法を理解し、カリキュラムを改善することができる</p>
教科書・参考書	<p>テキスト：関連資料を適宜活用する</p> <p>参考書：『対話的保育カリキュラム上・下』 加藤繁美 著 ひとなる書房</p> <p>『幼児理解と評価』文部科学省</p> <p>『旧保育所保育指針』厚生労働省</p>
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	実習巡回・会議などの他は、授業後PM6:00～随時対応する
備考・メッセージ	毎回パソコン使用

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位	必修
担当教員			
友廣 憲子			

講義概要	様々なテーマで身体表現する技術を学ぶ。また、自分で選んだ絵本に作曲した曲を挿入し、1つの作品を創り上げていくことを目標にする。
授業計画	<p>1回目 身体表現と作曲① 学習課題 復習：行った実践をより自身のものとするための練習をすること。 予習：次回のテーマを事前に調べておくこと。</p> <p>2回目 身体表現と作曲② 学習課題 復習：行った実践をより自身のものとするための練習をすること。 予習：次回のテーマを事前に調べておくこと。</p> <p>3回目 身体表現と作曲③ 学習課題 復習：行った実践をより自身のものとするための練習をすること。 予習：次回のテーマを事前に調べておくこと。</p> <p>4回目 身体表現と作曲④ 学習課題 復習：行った実践をより自身のものとするための練習をすること。 予習：次回のテーマを事前に調べておくこと。</p> <p>5回目 身体表現と作曲⑤ 学習課題 復習：行った実践をより自身のものとするための練習をすること。 予習：次回のテーマを事前に調べておくこと。</p> <p>6回目 絵本活動① 学習課題 復習：行った実践をより自身のものとするための練習をすること。 予習：次回のテーマを事前に調べておくこと。</p> <p>7回目 絵本活動② 学習課題 復習：行った実践をより自身のものとするための練習をすること。 予習：次回のテーマを事前に調べておくこと。</p> <p>8回目 絵本活動③ 学習課題 復習：行った実践をより自身のものとするための練習をすること。 予習：次回のテーマを事前に調べておくこと。</p> <p>9回目 絵本活動④ 学習課題 復習：行った実践をより自身のものとするための練習をすること。 予習：次回のテーマを事前に調べておくこと。</p> <p>10回目 絵本活動⑤ 学習課題 復習：行った実践をより自身のものとするための練習をすること。 予習：次回のテーマを事前に調べておくこと。</p> <p>11回目 絵本活動⑥ 学習課題 復習：行った実践をより自身のものとするための練習をすること。 予習：次回のテーマを事前に調べておくこと。</p> <p>12回目 絵本活動⑦ 学習課題 復習：行った実践をより自身のものとするための練習をすること。 予習：次回のテーマを事前に調べておくこと。</p> <p>13回目 絵本活動⑧ 学習課題 復習：行った実践をより自身のものとするための練習をすること。 予習：次回のテーマを事前に調べておくこと。</p> <p>14回目 絵本活動⑨ 学習課題 復習：行った実践をより自身のものとするための練習をすること。 予習：次回のテーマを事前に調べておくこと。</p> <p>15回目 発表 学習課題 復習：行った実践をより自身のものとするための練習をすること。 予習：</p>
授業形態	演習
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>①作曲の基礎を理解することができる。</p> <p>②音楽絵本のBGMを選曲できるようになる。</p> <p>③音楽絵本に挿入する曲作りができるようになる。</p> <p>④音楽絵本の構成ができるようになる。</p> <p>⑤テーマごとの身体表現ができるようになる。</p>
教科書・参考書	テキスト：必要に応じプリントを準備する
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業時間前後に教室で質問を受け付ける。
備考・メッセージ	学修したことをおさらいすること。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位	卒業：必修 幼一免：選択
担当教員			
川原 ゆかり			

講義概要	<p>①少子化・核家族化の中の子育ての問題の理解を深める。子どもの生活を育ちについて学ぶ。支援が必要な親子を理解する。</p> <p>②人間を理解するということの基礎知識を学ぶ。子どもの理解の基本を学習する。親の支援法を理解する。</p> <p>③子育てにとまどう親の理解を深める。親の生育環境と育児についての見識を深める。親になるプロセスと養育性の関連について知る。</p> <p>④気になる子どもについて理解する。発達に問題を抱える子どもと親のかかわりについて学ぶ。障害を持つ子供の親の心理と援助について学ぶ。</p> <p>⑤相談助言の実際について学習する。カウンセリングの実際を体験する。子育て支援の現状と課題についての理解を深める。</p>
授業計画	<p>1 今日の子育てニーズの背景及び子育て支援の現状と課題</p> <p>2 今日の子どもの生活と育ち</p> <p>3 人間理解の方法</p> <p>4 人間理解の方法 ～事例を通して～</p> <p>5 幼児期の育ちと人とのかかわり</p> <p>6 幼児期の育ちと人とのかかわり ～具体的事例から～</p> <p>7 親の養育主・育児性の発達</p> <p>8 親になるプロセス</p> <p>9 育ちに気がかりのある子どもと親の理解</p> <p>10 育ちに気がかりのある子どもと親の援助</p> <p>11 親の育児相談・助言の実際</p> <p>12 心理的援助の実際</p> <p>13 カウンセリングの実際</p> <p>14 障害を持つ子どもの親の心理と援助</p> <p>15 保護者支援という考え方について</p>
授業形態	講義
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>①育児支援の今日的な課題と意義について学び、保育者としての使命感や責任感を再認識する</p> <p>②人間理解（子どもと親）について知り、保育者の役割について考察するために、己についても知ることができる</p> <p>③親の養育性の理解を深め、子育て支援の意義について見識を高めることができる</p> <p>④育ちが気になる子どもと親について具体的事例を学び、発達障害児についての援助法を習得することができる</p> <p>⑤育児相談の実際について学習し、相談援助技術を高めることができる</p>
教科書・参考書	<p>テキスト：『子どもの理解と援助』 保育出版社</p> <p>参考書：『子どもを育む母親援助の実際』 保育出版社</p> <p>『保育者のためのカウンセリングマインド入門』 チャイルド社</p> <p>『保育者のための相談・援助技術』 萌文書林</p> <p>『言葉の交わり合い方』 学陽書房</p>
履修条件	
履修上の注意	

オフィスアワー	研究室にいるときはいつでも対応しますので、気軽に訪ねてきてください
備考・メッセージ	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位	選択
担当教員			
花城 暢一			

講義概要	授業では社会における家族の意義や機能、子育てにおける家庭の役割等を学ぶ。また、今日の社会的状況と子育てを照らし合わせながら、子どもと家庭を援助していく知識・技術を習得する。講義の後半では、事例検討やロールプレイ等の演習を通して家族援助や地域福祉の視点から保育者に求められる専門性について考察を深めていく。		
授業計画	1	オリエンテーション 子ども家庭援助技術の考え方について	
		学習課題 予習：配布資料を読む。	
	2	家族全体を地域で総合的に支援する 家庭問題を総合的に認識していく	
		学習課題 復習：家族全体を支える取り組みについて振り返る。 予習：配布資料を読む。	
	3	人間・家族・共同社会の発達 共同社会と家族の変容等	
		学習課題 復習：社会や家族の歴史的変遷について理解を深める。 予習：配布資料を読む。	
	4	人間・家族・共同社会の発達 人間の生涯生活における家族関係等	
		学習課題 復習：ライフサイクルにおける家族関係について振り返る。 予習：配布資料を読む。	
	5	家族の意義と家族システムの危機 家族と共同社会における子育て等	
		学習課題 復習：社会における家族の捉え方などについて振り返る。 予習：配布資料を読む。	
	6	家族の意義と家族システムの危機 家族システムの危機に対する社会支援等	
		学習課題 復習：家族の役割と社会のサポートシステムについて振り返る。 予習：配布資料を読む。	
	7	家族支援の視座と方法 ファミリーソーシャルワークの視座と方法等	
		学習課題 復習：ソーシャルワークの体系について振り返る。 予習：配布資料を読む。	
	8	家族支援の意義と活動 子育て・子育て・親育ち支援の意義と活動等	
		学習課題 復習：家庭支援の意義と取り組みについて理解する。 予習：配布資料を読む。	
	9	家族支援の意義と活動 家族における文化伝達の内容と支援の方法等	
		学習課題 復習：家庭支援の意義と取り組みについて理解する。 予習：配布資料を読む。	
	10	家族支援の制度・施策の現状と課題 家族福祉サービス・家族支援のネットワーク化等	
		学習課題 復習：家庭を支えるサービスについて理解を深める。 予習：配布資料を読む。	
	11	家族支援の実際 子と親の事例研究・ロールプレイ	
		学習課題 復習：事例検討を通して家族支援について理解を深める。 予習：配布資料を読む。	
	12	家族支援の実際 子と親の事例研究・ロールプレイ	
		学習課題 復習：家族支援の実際についてインターンシップを通して振り返る。 予習：配布資料を読む。	
	13	家族支援の実際	

	<p>子と親の事例研究・ロールプレイ</p> <p>学習課題 復習：家族支援の実際についてインターンシップを通して理解を深める。 予習：配布資料を読む。</p> <p>1 4 家族支援の実際 子と親の事例研究・ロールプレイ</p> <p>学習課題 復習：家族支援のロールプレイの内容を振り返る。 予習：配布資料を読む。</p> <p>1 5 保育者の役割と専門性 保育者の役割と専門性について学ぶ</p> <p>学習課題 復習：保育者の役割と専門性について振り返る。 予習：配布資料を読む。</p>
授業形態	講義
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>①現代の保育問題や家族問題などの社会的動向を考える（分析する）姿勢を養うことができる。</p> <p>②家庭の機能と役割についての理解を深めることができる。</p> <p>③子どもや保護者とのコミュニケーションについて理解を深めることができる。</p> <p>④相談援助で学習した内容を踏まえ、対人援助およびファミリーソーシャルワークに必要な知識・技術を習得することができる。</p> <p>⑤子どもや家庭を支援していく際の保育者の役割と専門性について考察を深めることができる。</p>
教科書・参考書	<p>テキスト：必要に応じて資料を配布します。</p> <p>参考書：『よくわかる ファミリーソーシャルワーク』 喜多祐荘・小林 理 編、ミネルヴァ書房</p>
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業、会議、実習巡回、出張等が入っていない場合は随時対応します。
備考・メッセージ	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位	卒業：選択
担当教員			
井田 裕子			

講義概要	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもは家族の中に誕生し家族に育まれ成長発達しており、子どもと家族は一つの単位であること 又子どもを取り巻く人々地域社会との関連があることをとらえる。 ・「何か変！」と言うように いつもと違うことに気づく能力を身につけて、観察の重要性と主な症状に対する関わり方や健康問題とその対応を事例紹介などで深める。 ・子どもを取り巻く環境や事故の要因について特徴をとらえて 応急措置や予防法を学内演習で学ぶ。 ・安静を必要とするこどもの遊びについてはグループワークで具体例を出し合いながら検討し内容を深めていく。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 小児看護の特質 小児看護の対象と目標、小児看護の場と役割 2 小児の健康問題が小児と家族に及ぼす影響 小児の健康問題・子どもの反応・親や兄弟の反応 3 子どもの健康状態の把握 観察の重要性（異常の気づき）、病気の特徴 4 小児にみられる主な症状の見方と対応 啼泣・不機嫌、発熱・せきなど 5 小児にみられる主な症状の見方と対応 腹痛・下痢・便秘・嘔吐・脱水など 6 小児にみられる主な症状の見方と対応 頭痛・けいれん・発疹など 7 子どもが遭遇する疾病時のかかわり 感染症（麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎・インフルエンザ）予防接種 8 子どもが遭遇する疾病時のかかわり 気管支喘息・アトピー性皮膚炎・食物アレルギーなど 9 くすりの取り扱いと服薬法 服薬法（散剤・水薬・シロップ）座薬の使い方・救急箱 10 子どもの事故と安全対策 事故の原因・救急措置・異物誤嚥 11 子どもの事故と安全対策 切傷・刺傷・擦過傷・骨折・熱傷・鼻出血 12 保育における子どもの健康管理 保育中の子どもの体調不良や感染症発生時の対応 13 安静を必要とする子どもへのかかわり 安静の必要性、安静を必要とする子どもの遊び グループワーク 14 安静を必要とする子どもへのかかわり 安静を必要とするこどもの遊び グループワーク 15 保育者としての健康管理 個人衛生・自己管理
授業形態	講義
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<ol style="list-style-type: none"> ①小児看護の特質や健康問題が及ぼす家族への影響が理解できる ②小児にみられる主な症状の見方と看護の基礎知識を身につけることができる ③小児がよく遭遇する健康問題のある子どもへの対応が理解できる ④こどもの事故の特徴をとらえ事故防止と安全の重要性がわかる ⑤安静を必要とするこどもの遊びを考えその関わり方がわかる <p>授業終了後の筆記試験（60%）、授業内の課題提出（30%）、学習の取り組みや態度（10%）を総合して評価をおこなう。</p>
教科書・参考書	テキスト：「小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学①」 医学書院
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業の前後で対応します。
備考・メッセージ	【準備学習（自主学習）】 次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位	選択
担当教員			
吉田 美恵子			

講義概要	生活における環境との多様な関わりを通して、心情・意欲・態度が育つことを重視し、「生きる力」が養われる過程を学習する。 「何が課題なのか」「保育観、子ども観」など問題意識を持ち、セッションを行う中で、自らの保育の適切性を吟味する。
授業計画	<p>1回 記録の客観性と継続性</p> <p>1年間のインターンシップ記録をもとに形式を設定する</p> <p>学習課題 復習：予習：1年次のインターンシップ記録を読み返す</p> <p>2回 年間計画・目標の設定</p> <p>インターンシップの実態を踏まえた実践目標</p> <p>学習課題 復習：2年次のインターンシップ記録の作成 予習：これまでの子どもの姿を踏まえた目標の選択</p> <p>3回 地域社会との交流</p> <p>地域イベントの意義と役割（計画・企画）</p> <p>学習課題 復習：1年次の地域イベントのまとめ 予習：イベントでの行動・企画の提案資料</p> <p>4回 地域イベント交流と連携</p> <p>地域イベント交流（実践・反省・改善）</p> <p>学習課題 復習：準備の総まとめ 予習：地域イベントの意義を体験を通じた結果から考える</p> <p>5回 科学する心を育てる保育の実践</p> <p>知的好奇心の芽生え</p> <p>学習課題 復習：子どもの発達と環境への働き・気づきの事例 予習：発見・不思議さ・驚嘆の体験</p> <p>6回 科学する心を育てる保育の実践</p> <p>驚きや不思議と付き合う園の生活</p> <p>学習課題 復習：インターンシップでの体験事例の整理 予習：遊びのなかにある科学を探す</p> <p>7回 科学する心を育てる保育の実践</p> <p>子どもがときめく「場作り」「状況作り」「情況作り」</p> <p>学習課題 復習：遊びの中にある科学を紹介する準備 予習：実験や実践の準備</p> <p>8回 科学する心を育てる保育の実践</p> <p>知的な気づきをウエビィングする保育実践</p> <p>学習課題 復習：科学のおもしろさ不思議さに気づく遊び 予習：実験や実践内容の準備</p> <p>9回 インターンシップ記録の考察</p> <p>子どもからの学びと問題意識</p> <p>学習課題 復習：子どもたちの生活の中の科学遊びの整理 予習：インターンシップ記録からの問題事例の抽出</p> <p>10回 インターンシップ記録の考察</p> <p>子どもの変化と背景</p> <p>学習課題 復習：インターンシップ記録から抽出された問題事例の考察 予習：保育場面での援助の仕方や方法を記録から読み取る</p> <p>11回 インターンシップ記録の考察と発表①</p> <p>インターンシップにおける保育者の援助について)</p>

	<p>学習課題 復習：他者の内容を整理して記入する 予習：わかりやすく説得力のあるプレゼンを考える</p> <p>12回 インターンシップ記録の考察と発表②</p> <p>インターンシップにおける保育者の援助について)</p> <p>学習課題 復習：記録の中から発表したい内容を整理しておく 予習：わかりやすく説得力のあるプレゼンを考える</p> <p>13回 購読内容の解説</p> <p>着目する内容について調べ、まとめて発表する</p> <p>学習課題 復習：保育場面での援助の方法で良かった点、改善を要する点を整理する 予習：問題意識を持ち購読する内容を選んでおく</p> <p>14回 保育観・子ども観</p> <p>子どもの観かたや保育観についてディベートやディスカッションを行う</p> <p>学習課題 復習：論説を読みなおし、文の構成や流れを把握する 予習：パソコン使用しパワーポイント作成</p> <p>15回 実践研究の考察と課題</p> <p>研究発表の意義と方法</p> <p>学習課題 復習：実践事例に見られる子どもの育ちをまとめる 予習：プレゼン資料の作成</p>
授業形態	演習
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>①記録を効果的に保育に活かすことができる</p> <p>②子どもの発見や気づきに共感し、遊びの発展ができる</p> <p>③意欲的に環境と関わり飼育・栽培を通して子どもが育つものが理解できる</p> <p>④地域社会における保育者の役割が理解できる</p> <p>⑤実践の省察を行い、自分なりの保育観が発表できる</p>
教科書・参考書	<p>テキスト：関連資料を適宜活用する 保育用語辞典</p> <p>参考書：『自分づくりと保育の構造』 加藤繁美 著 ひとなる書房</p> <p>『8歳までに経験しておきたい科学』 J.D.ハーレン M.S.リプキン 著 北大路書房</p>
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	実習巡回・会議などの他は、授業後PM6:00～随時対応する
備考・メッセージ	インターンシップ記録は毎月末に提出

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位	卒業：選択 幼一免：選択
担当教員			
大久保 敬次			

講義概要	幼児算数の学習全体を通して、講義中心の中に便宜演習を取り入れながら、教材研究の進め方、遊びの中での算数的活動の進め方等、具体的な事例を参考にしながら授業を展開していく。特に、小学校現場の指導の様子や模擬授業を活用しながら、自己表現力、資料活用力、問題解決力を学ぶ。
授業計画	<p>1 オリエンテーション 授業のねらいと課題設定、評価について</p> <p>2 幼児期の発達（1） 幼児期の知的発達の特徴（1）</p> <p>3 幼児期の発達（2） 幼児期の知的発達の特徴（2）</p> <p>4 教育要領・指導要領の研究（1） 幼稚園教育要領・保育所保育指針・小学校学習指導要領の研究（1）</p> <p>5 教育要領・指導要領の研究（2） 幼稚園教育要領・保育所保育指針・小学校学習指導要領の研究（2）</p> <p>6 幼稚園と小学校（1） 算数的教材の系統と指導内容の研究（1）</p> <p>7 幼稚園と小学校（2） 算数的教材の系統と指導内容の研究（2）</p> <p>8 幼稚園と小学校（3） 算数的教材の系統と指導内容の研究（3）</p> <p>9 指導法の研究（1） 授業参観による授業の研究</p> <p>10 指導法の研究（2） 事前学習と授業参観との比較による授業の研究</p> <p>11 指導法の研究（3） 模擬授業へ向けて教材研究、指導案作成（1）</p> <p>12 指導法の研究（4） 模擬授業へ向けて教材研究、指導案作成（2）</p> <p>13 指導法の研究（5） 模擬授業と保育所・幼稚園での生かし方発表準備</p> <p>14 研究発表（1） 保育所・幼稚園での生かし方発表</p> <p>15 研究発表（2） 研究のまとめと研究発表</p>
授業形態	講義
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>①幼児期の知的発達の特徴を理解できる。</p> <p>②幼稚園教育要領や保育所保育指針と小学校学習指導要領との関連について研究する能力を習得する。</p> <p>③幼児期の知的発達と算数的教材の系統と指導内容を理解できる。</p> <p>④算数的活動と遊びの関連を理解できる。</p> <p>⑤模擬授業と課題研究、小研究会の運営を進めることができる。</p> <p>・授業態度、実習・実技の態度、課題レポートの内容や提出状況等で総合的に評価する。</p> <p>・模擬授業等授業でのテーマに応じた内容でレポートで評価する</p>
教科書・参考書	<p>テキスト：必要に応じて講義用のテキストを作成する。</p> <p>参考書：『幼児期から児童期への教育』 国立教育政策研究所・教育課程研究センター ひかりのくに 『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 『新保育所保育指針の読み方（解説・資料・実践）』 全社協 『小学校学習指導要領解説 算数編』 文部科学省</p>
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業の前後で対応します。
備考・メッセージ	<p>・講義内容の小テストを実施し定着を図る。</p> <p>【準備学習（自主学習）】 課題を設定し、準備学習等自主的な学習を促していく。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位	卒業：必修 幼一免：選択
担当教員			
安部 恵美子			

講義概要	到達目標①から⑤を達成するための具体的学習内容や討議内容は以下のとおりである。 ①保育現場と保育者の仕事 保育者と子どものかかわりの実態 保護者支援の実態 保育者集団の協働の実態 ②社会の変化と保育発展の関係 明治・大正期の保育者の活躍の様相 高まる保育職への期待 ③わが国の保育政策の特徴 先進国の保育政策動向 少子化克服に寄与する保育政策の特徴 ④子育て支援の場に求められる保育者の資質 新しい保育システムと保育者 保育者資格の高度化への対応 ⑤保育現場の子どもの貧困への対応 保育現場の地域間格差への対応 保育者の待遇改善と専門性の向上
授業計画	<p>1 保育職の意義と役割 教育する主体/世話する主体としての保育者の仕事内容を確認する</p> <p>2 保育職の仕事 1 保育実践の日常から保育者の仕事を整理する ①子どもを保育する</p> <p>3 保育職の仕事 2 保育実践の日常から保育者の仕事を整理する ②保護者の支援</p> <p>4 保育職の仕事 3 保育実践の日常から保育者の仕事を整理する ③園務と保育者集団の協働</p> <p>5 保育職 過去から未来へ 1 社会的保育の誕生と発達の必然性派生のプロセス 西欧編</p> <p>6 保育職 過去から未来へ 2 社会的保育の誕生と発達の必然性派生のプロセス 日本編</p> <p>7 保育職 過去から未来へ 3 保育の歴史に刻む保育者たち 明治期（松野クララ 野口幽香 徳永恕ほか）</p> <p>8 保育職 過去から未来へ 4 保育の歴史に刻む保育者たち 大正・昭和期（倉橋惣三 木戸幡太郎ほか）</p> <p>9 保育制度・保育職の国際比較 1 わが国の子ども・家庭支援に対する政策動向と保育所・幼稚園</p> <p>10 保育制度・保育職の国際比較 2 諸外国の保育制度のあらまし・保育職の地位</p> <p>11 保育職に関連する現在の諸問題 1 新しい保育制度構想と保育者資格の高度化</p> <p>12 保育職に関連する現在の諸問題 2 保育の地域格差の実態把握とその対応</p> <p>13 保育職に関連する現在の諸問題 3 子どもの貧困と教育格差の問題への保育者としての対処法</p> <p>14 保育者の身分保障とキャリア形成 1 保育者の労働実態 全国調査から</p> <p>15 保育者の身分保障とキャリア形成 2 保育者としてのキャリア形成に関するディスカッション</p>
授業形態	講義
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	①保育職の意義と役割に関する実践的理解を深める ②保育制度の発達と保育職の意義・役割の変化の関連を概観する ③保育制度や保育者資格に関する国際比較を行う ④多様化する現代の保育ニーズに対応する保育者の資質向上を考える ⑤保育職のキャリア形成に関する問題点を考察し、討議する
教科書・参考書	テキスト：特別に指定しません 参考書：『保育者論』 汐見稔幸・大豆生田啓友 編 ミネルヴァ書房 学習の円滑な促進を図るために課題ごとに必要な資料を作成し授業時に配布する。
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	いつでも対応しますが、出張が多いため事前に予約をすること
備考・メッセージ	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位	卒業：選択 幼一免：選択
担当教員			
川原 ゆかり			

講義概要	<p>①障害児支援の動向について知識を得る 障害児支援の基礎知識を学ぶ 障害児支援としての福祉制度について知る</p> <p>②特別支援教育の背景について理解する 特別支援教育について学ぶ 特別支援教育の取り組みの実際を修得する</p> <p>③障害児のアセスメント法を体験する アセスメントの実際を学ぶ アセスメントの活かし方・グループ討議する</p> <p>④知的障害の理解を深める 広汎性発達障害の理解と支援方法について学ぶ 学習障害の理解と支援法を学ぶ</p> <p>⑤障害を持つ家族の心理について理解する 障害児と家族について見識を高める 障害児の親の会など社会活動に参加する</p>
授業計画	<p>1 障害児の現状と課題（障害児を取り巻く社会環境や福祉制度）</p> <p>2 障害児の基礎知識</p> <p>3 特別支援教育の背景</p> <p>4 特別支援対象児の障害の原因・病理</p> <p>5 特別支援児の理解</p> <p>6 障害児の理解と支援方法</p> <p>7 発達障害の早期発見と早期対応・早期療育の実際</p> <p>8 障害児のアセスメント Part I</p> <p>9 障害児のアセスメント Part II</p> <p>10 ADHDの理解と対応</p> <p>11 LDの理解と対応</p> <p>12 アスペルガー障害の理解と対応</p> <p>13 障害児の治療的アプローチ</p> <p>14 発達障害児とSST</p> <p>15 発達障害児と家族</p>
授業形態	講義
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>①障害児と取り巻く現状と課題について学び、保育者としての使命感や責任感を再認識する</p> <p>②特別支援教育の背景と動向について知り、保育者の役割について考察することにより、社会的な役割についての意識の向上を図ることができる</p> <p>③障害児の理解（アセスメント）法を学び、発達診断のスキルを身につけることができる</p> <p>④障害児の理解と支援法を修得するために、発達障害児について具体的に学び、見識を深めることができる</p> <p>⑤障害児と家族について具体的な事例を通して理解を深め、支援することができるようになる</p>
教科書・参考書	<p>テキスト：『障害児の理解と支援』 駿河台出版社</p> <p>参考書：インターネットや新聞報道などを活用し、適宜、タイムリーな最新の資料を活用</p>
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	研究室にいるときはいつでも対応しますので、気軽に訪ねてきてください
備考・メッセージ	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位	選択
担当教員			
友廣 憲子			

講義概要	保育専攻2年と専攻科1年で培ってきた「音楽力」を土台として、保育者として更に深く磨きをかけ、音楽表現力を身に付ける。「ドラムジカ」を中心に授業を進める。
授業計画	<p>1回目 ドラムジカ研究①</p> <p>学習課題 復習：実践練習 予習：発声練習</p> <p>ドラムジカ研究②</p> <p>学習課題 復習：実践練習 予習：発声練習</p> <p>3回目 ドラムジカ研究③</p> <p>学習課題 復習：実践練習 予習：発声練習</p> <p>4回目 ドラムジカ研究④</p> <p>学習課題 復習：実践練習 予習：発声練習</p> <p>5回目 ドラムジカ研究⑤</p> <p>学習課題 復習：実践練習 予習：発声練習</p> <p>6回目 ドラムジカ研究⑥</p> <p>学習課題 復習：実践練習 予習：発声練習</p> <p>7回目 ドラムジカ研究⑦</p> <p>学習課題 復習：実践練習 予習：発声練習</p> <p>8回目 ドラムジカ研究⑧</p> <p>学習課題 復習：実践練習 予習：発声練習</p> <p>9回目 ドラムジカ研究⑨</p> <p>学習課題 復習：実践練習 予習：発声練習</p> <p>10回目 ドラムジカ研究⑩</p> <p>学習課題 復習：実践練習 予習：発声練習</p> <p>11回目 ドラムジカ研究⑪</p> <p>学習課題 復習：実践練習 予習：発声練習</p> <p>12回目 ドラムジカ研究⑫</p> <p>学習課題 復習：実践練習 予習：発声練習</p> <p>13回目 ドラムジカ研究⑬</p> <p>学習課題 復習：実践練習 予習：発声練習</p> <p>14回目 ドラムジカ研究⑭</p> <p>学習課題 復習：実践練習 予習：発声練習</p> <p>15回目 ドラムジカ研究発表</p> <p>学習課題 復習：実践練習 予習：発声練習</p>
授業形態	演習
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>①歌唱力、表現力の技術を修得することができる。</p> <p>②毎回、積極的に授業に参加できる。</p> <p>③自分の役割に責任を持って取り組むことができる。</p> <p>④自分の能力を客観的に把握することができる。</p> <p>⑤自分に足りない能力を開発しようとするすることができる。</p>
教科書・参考書	必要に応じてプリント配布
履修条件	保育内容〈表現音楽〉研究Ⅰを単位取得しておくこと。
履修上の注意	授業後、行った実践をより自分のものにするため練習をすること。
オフィスアワー	授業時間前後に質問を受け付ける
備考・メッセージ	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位	必修
担当教員			
陣内 敦			

講義概要	本演習では、造形活動の幼児教育における意義を理解するとともに、自然物を用いた工作、壁面制作、絵画制作、立体工作などをおこなう。また、教材研究と指導法研究を学生の個人個人が独自に行い、授業内で発表の後、これに対する相互の意見交換を行なう。また、最終的に研究レポートを作成する。		
授業計画	1	オリエンテーション 幼児の造形活動の重要性について 学習課題 予習：学科時代の表現造形活動の振り返りをおこなう 復習：造形活動を通して子どもたちの育ちをはぐくむべきかを考える	
	2	幼児の表現活動の支援① こどもの部屋の運営準備（劇の大道具作り） 学習課題 予習：制作物の用い方を考慮し、デザインを考える 復習：制作物の改善をおこなう	
	3	幼児の表現活動の支援② こどもの部屋の運営準備（劇の大道具作り） 学習課題 予習：制作物の用い方を考慮し、デザインを考える 復習：制作物の改善をおこなう	
	4	幼児の表現活動の支援③ こどもの部屋の運営準備（劇の小道具作り） 学習課題 予習：制作物の用い方を考慮し、デザインを考える 復習：制作物の改善をおこなう	
	5	幼児の表現活動の支援④ こどもの部屋の運営準備（劇の小道具作り） 学習課題 予習：制作物の用い方を考慮し、デザインを考える 復習：制作物の改善をおこなう	
	6	幼児の表現活動の支援⑤ こどもの部屋の運営準備（環境構成） 学習課題 予習：制作物の用い方を考慮し、デザインを考える 復習：制作物の改善をおこなう	
	7	自然物を用いた工作① ナチュラルアートの制作 学習課題 予習：自然の与える感覚について考える 復習：自然物の素材の温かさを大切にしながら構想を続ける	
	8	自然物を用いた工作② ナチュラルアートの制作 学習課題 予習：構想を具体的イメージにつなげていく 復習：お互いの作品を鑑賞する	
	9	壁面制作① 切り紙とらくがき遊び 学習課題 予習：らくがきの楽しさについて考える 復習：切り紙の不思議さを楽しみ構想を続ける	
	10	壁面制作② 切り紙とらくがき遊び 学習課題 予習：構想を具体的イメージにつなげていく 復習：お互いの作品を鑑賞する	
	11	絵画制作① 野菜のスタンプ遊び 学習課題 予習：自然物の持つ形のおもしろさについて考える 復習：お互いの作品を鑑賞する	
	12	絵画制作② フィンガーペインティング 学習課題 予習：フィンガーペインティングの魅力について考える 復習：お互いの作品を鑑賞する	
	13	立体工作① ダンボールアート（共同制作） 学習課題 予習：ダンボールで作りたいものを考える 復習：ダンボール素材の温かさを大切にしながら構想を続ける	
	14	立体工作② ダンボールアート（共同制作） 学習課題 予習：構想を具体的イメージにつなげていく 復習：共同で作った作品を鑑賞する	
	15	表現造形活動の構想 指導案作成 学習課題 予習：幼児のクラス編成を想定し、理想的な造形活動を構想する 復習：造形活動によって得られる効用について考える	

授業形態	演習
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	①幼児の造形活動についての重要性を理解する ②幼児の造形活動を計画する方法を習得する ③幼児の造形活動を支える事前準備と環境構成について理解する ④幼児の造形活動に対する保育者の支援内容を習得する ⑤幼児の様々な活動を支える造形の役割を体験する
教科書・参考書	課題ごとに、必要な参考資料を提示。 参考書：『保育をひらく造形表現』 槇英子著 萌文書林
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業時間前後に教室で質問を受け付ける。任意に研究室を訪ね質問することも可能である。
備考・メッセージ	課題ごとの材料と道具は、一括購入する物と各自準備する物との別があり、事前連絡に留意すること。 また、課題ごとに設けた作品提出期限を厳守すること。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位	講義
担当教員			
大橋 和博			

講義概要	①障害者の定義について学ぶ。 ②障害者福祉の理念について学ぶ。 ③障害者福祉の歴史について学ぶ。 ④障害者福祉の課題について考察する。 ⑤障害者福祉への理解を踏まえ、障害者支援について考察する。
授業計画	<p>1 障害者の定義① 「障害」のとらえ方について、国際生活機能分類の障害概念を中心に考える 学習課題 復習：講義の内容を振り返って理解を深めておくこと 予習：テキストの次回該当範囲を読んでおくこと</p> <p>2 障害者の定義② 関連する理論やビデオ等から考察を深める 学習課題 復習：講義の内容を振り返って理解を深めておくこと 予習：テキストの次回該当範囲を読んでおくこと</p> <p>3 障害者の定義③ 前回までの授業内容についてディスカッションし、考えを明確化する 学習課題 復習：講義の内容を振り返って理解を深めておくこと 予習：テキストの次回該当範囲を読んでおくこと</p> <p>4 障害者の定義④ 関連する理論やビデオ等から考察を深める 学習課題 復習：講義の内容を振り返って理解を深めておくこと 予習：テキストの次回該当範囲を読んでおくこと</p> <p>5 障害者の定義⑤ 質疑応答をしながらレポートにまとめる 学習課題 復習：講義の内容を振り返って理解を深めておくこと 予習：テキストの次回該当範囲を読んでおくこと</p> <p>6 障害者福祉の理念① 障害者福祉の理念について、ノーマライゼーションを中心に考える 学習課題 復習：講義の内容を振り返って理解を深めておくこと 予習：テキストの次回該当範囲を読んでおくこと</p> <p>7 障害者福祉の理念② 関連する理論やビデオ等から考察を深める 学習課題 復習：講義の内容を振り返って理解を深めておくこと 予習：テキストの次回該当範囲を読んでおくこと</p> <p>8 障害者福祉の理念③ 前回までの授業内容についてディスカッションし、考えを明確化する 学習課題 復習：講義の内容を振り返って理解を深めておくこと 予習：テキストの次回該当範囲を読んでおくこと</p> <p>9 障害者福祉の理念④ 関連する理論やビデオ等から考察を深める 学習課題 復習：講義の内容を振り返って理解を深めておくこと 予習：テキストの次回該当範囲を読んでおくこと</p> <p>10 障害者福祉の理念⑤ 質疑応答をしながらレポートにまとめる 学習課題 復習：講義の内容を振り返って理解を深めておくこと 予習：テキストの次回該当範囲を読んでおくこと</p> <p>11 障害者福祉の歴史① 主に第二次世界大戦から2000年までの障害者福祉の歴史的展開について考える 学習課題 復習：講義の内容を振り返って理解を深めておくこと 予習：テキストの次回該当範囲を読んでおくこと</p> <p>12 障害者福祉の歴史② 関連する理論やビデオ等から考察を深める 学習課題 復習：講義の内容を振り返って理解を深めておくこと 予習：テキストの次回該当範囲を読んでおくこと</p>

	<p>1 3 障害者福祉の歴史③ 前回までの授業内容についてディスカッションし、考えを明確化する</p> <p>学習課題 復習：講義の内容を振り返って理解を深めておくこと 予習：テキストの次回該当範囲を読んでおくこと</p> <p>1 4 障害者福祉の歴史④ 関連する理論やビデオ等から考察を深める</p> <p>学習課題 復習：講義の内容を振り返って理解を深めておくこと 予習：まとめのレポート作成について準備すること</p> <p>1 5 障害者福祉の歴史⑤ 質疑応答をしながらレポートにまとめる</p> <p>学習課題 復習：これまでの講義の内容を再度振り返って理解を深めておくこと 予習：</p>
授業形態	講義
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>①「障害」の捉え方について知見を広める。</p> <p>②障害者福祉の理念を理解することができる。</p> <p>③障害者福祉の歴史的展開について知見を広める。</p> <p>④障害者の権利保障や差別解消について理解することができる。</p> <p>⑤障害者福祉の現代的課題を考察し意見をまとめることができる。</p>
教科書・参考書	<p>テキスト：竹端寛、山下幸子、尾崎剛志、圓山里子著『新・基礎からの社会福祉④障害者福祉』 ミネルヴァ書房 2014</p> <p>参考書：必要に応じて資料を配付する</p>
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業時間前後に教室で質問を受け付ける。
備考・メッセージ	テキストの予習復習を欠かさないこと。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位	選択
担当教員			
吉田美恵子			

講義概要	<p>幼児は、発達に適した環境の中で、遊びを中心とした活動を通し様々な体験をしながら、「生きる力」が育っていくことを理解する。本授業では、日々の保育実践を生み出すための基本的な理念・保育の目標や目的・保育のキーパーソンとなる保育者の役割について検討、再認識する。 インターンシップの記録を整理・分析し今後の課題を明確にしながら自己の保育観を豊かにしていく。</p>		
授業計画	1回	<p>保育の展開と保育者の姿勢</p> <p>人的環境としての教師の役割</p> <p>学習課題 復習：前期のインターンシップ記録の読み返し 予習：人的環境について</p>	
	2回	<p>学ぶ力を耕す・培う・育む</p> <p>乳幼児期における道徳性の芽生え（コールパーク）</p> <p>学習課題 復習：子どもの人間関係 予習：道徳性について</p>	
	3回	<p>学ぶ力を耕す・培う・育む</p> <p>園生活の中の心地よさとトラブル</p> <p>学習課題 復習：コールパークについて 予習：インターンシップでのトラブル場面</p>	
	4回	<p>学ぶ力を耕す・培う・育む</p> <p>子どもの思いを受け止める保育（子どもの主体性と誘導保育）</p> <p>学習課題 復習：子どもの生活の心地よさやトラブル場面における保育者の役割 予習：倉橋惣三の誘導保育とは</p>	
	5回	<p>学ぶ力を耕す・培う・育む</p> <p>生きる力の培いと育みの保育</p> <p>学習課題 復習：「幼稚園教育要領」総則 予習：実践事例の考察</p>	
	6回	<p>劇あそびの構成・企画</p> <p>地域子育て支援活動・企画と実践</p> <p>学習課題 復習：これまでの保育実践や教材作成を地域子育て支援活動に活かす 予習：表現方法、演じ方の練習</p>	
	7回	<p>地域子育て支援と保育者の役割</p> <p>社会的資源としての保育園や幼稚園の役割</p> <p>学習課題 復習：園・家庭・地域との連携を深めた活動例 予習：子どもを取り巻く社会的変化と園の役割</p>	
	8回	<p>食育について</p> <p>子どもの生活と食事について 安全な食事 除去食について</p> <p>学習課題 復習：前期作成の保育課程から食育の項目の内容確認 予習：子どもの食に関する記事や著書を読む</p>	
	9回	<p>食育の目標</p> <p>育てた野菜の収穫、調理 命をいただく 子どもの育ちを支える食育の目標</p> <p>学習課題 復習：インターンシップ記録の中の食育 予習：保育園や幼稚園の給食内容</p>	
	10回	<p>保・幼・小連携</p> <p>子どもの育ちと保・幼・小への接続と相互理解</p> <p>学習課題 復習：子どもの食への配慮や留意事項を整理する 予習：学びの連続性</p>	
	11回	<p>パネルシアター作成</p>	

	<p>パネルシアターのテーマと場面設定 パネルシアターボードの作成</p> <p>12回 学習課題 復習：興味のあるお話や創作話からの選択 予習：パネルシアターの教材研究 パネルシアター作成</p> <p>パネル用ペーパーに絵を描く</p> <p>13回 学習課題 復習：パネルボードの完成 予習：お話の場面により必要な絵の種類を選択する パネルシアター作成</p> <p>パネル用ペーパーに絵を描き作成し、話の流れに沿って場面展開する</p> <p>14回 学習課題 復習：パネル用ペーパーの絵を描く 予習：お話の場面展開のイメージを持つ パネルシアター発表</p> <p>パネルシアターの前後の保育の流れを大切に、パネルシアターの演じ方を工夫して発表する</p> <p>15回 学習課題 復習：パネルシアターの練習 予習：イメージを豊かにする演じ方を研究する インターンシップの成果についてまとめる</p> <p>2年間のインターンシップで得たものを発表する 後輩へのメッセージを書く</p> <p>学習課題 復習：インターンシップ2年間の記録の整理 予習：インターンシップの効果をまとめておく</p>
授業形態	演習
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	①幼児期にふさわしい生活の適切な援助を理解する ②子どもの内面と向き合う保育の姿勢が理解できる ③基本的な保育理論を理解し、それを土台にした保育実践を目指すことができる ④家庭・地域社会との連携と連続性が理解できる ⑤実践記録をまとめプレゼンテーションができる
教科書・参考書	テキスト：関連資料を適宜活用する 参考書：『子育て支援の理論と実践』 子育て支援プロジェクト研究会 ミネルヴァ書房 『対話と保育実践のフーガ』 加藤繁美 著 ひとなる書房
履修条件	
履修上の注意	パネルボード作成用のボード2枚 ネル生地 パネル用ペーパー を使用する
オフィスアワー	実習巡回・会議等の他は、授業後PM6:00～随時対応する
備考・メッセージ	インターンシップ記録は毎月末に提出

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位	卒業：必修 幼一免：選択
担当教員			
久田 裕己			

講義概要	<p>①パソコンの各種設定方法を身につけタッチタイピングを習得する</p> <p>②インターネットを使用するうえで必要な社会ルールやマナー、著作権について理解する。ホームページ閲覧や検索方法などを身につける</p> <p>③Wordを使い、正確かつスピーディーな文書作成が行えるよう、基本操作を学習する 保育現場に必要な園だよりを作成する</p> <p>④Excelを使い、計算式や関数の組み立て、表の装飾やグラフの作成を学習する 行事カレンダーや出席簿を作成する</p> <p>⑤PowerPointを使い、プレゼンテーションの仕方および注意点等を学習する 電子絵本を作成し発表する</p>
授業計画	<p>1 コンピュータの基礎知識 パソコン基本操作の復習、各種設定、ファイル保存、タッチタイピング、長文入力 学習課題 復習：パソコンの基本操作を復習したあと、大学内でのファイル保存場所の確認や、ホームポジションを意識したタッチタイピングの練習を行う</p> <p>2 文書作成（1） Wordによるビジネス文書の作成（あいさつ文の挿入、文字の装飾、書式設定、拡張書式設定） 学習課題 復習：タッチタイピングを継続的に練習しながら、中央揃えやインデントなどの文字配置や飾りつけの練習を行う</p> <p>3 文書作成（2） Wordによる表枠作成（表の挿入、列の分割・結合、罫線の装飾） 学習課題 復習：表挿入や編集を行うボタンの位置および完成例をもとにした表枠の練習課題を行う</p> <p>4 文書作成（3） 表枠を含んだビジネス文書の作成演習 学習課題 復習：完成例をもとにしたビジネス文書作成の練習課題を行う</p> <p>5 文書作成（4） Wordによる図形の操作（図形の基本操作、クリップアート、オートシェイプ、写真） 課題（園だより）の作成準備 学習課題 復習：図形の拡大縮小・移動などの基本操作の確認と、図形を含む練習課題を行う</p> <p>6 Wordのまとめ 総復習・課題作成（園だより） 学習課題 復習：レイアウトを整え、イラストや表枠を入れた見やすく楽しい園だよりを完成させる</p> <p>7 Excel操作（1） 表作成（データ入力の基礎、オートフィル、セルの書式設定） 学習課題 復習：効率の良い範囲選択や曜日などの自動入力など、テキストを見直して例題を解く</p> <p>8 Excel操作（2） 計算式（加減乗除）、関数（合計・平均・カウント・最大・最小） 学習課題 復習：計算式の作成と関数の使用（オートSUM）の練習課題を行う</p> <p>9 Excel操作（3） 関数（IF・RANK・COUNTIF）、データの並べ替え 学習課題 復習：目的に応じた関数の使用、住所録などの並べ替えの練習課題を行う</p> <p>10 Excelのまとめ 総復習・課題作成（出席簿） 学習課題 復習：適切な関数を活用し、レイアウトを整えた見やすい行事カレンダーや出席簿の作成を行う</p>

	<p>1 1 情報モラルおよびインターネットの活用 インターネット社会のルール・マナー、著作権の保護、情報検索方法 学習課題 復習：インターネットを活用する際の危険な行為を再度認識し、ネット活用を行う</p> <p>1 2 PowerPointの基礎（1） スライド作成、テキスト・図の挿入、アニメーションの設定 学習課題 復習：文字や図を活用したスライド作成の練習課題を行う</p> <p>1 3 PowerPointの基礎（1） スライドショー操作および発表の注意点、印刷・配布資料の作成 電子絵本作りの課題内容説明、準備 学習課題 復習：電子絵本の構成を考える</p> <p>1 4 PowerPointのまとめ 課題作成（電子絵本） 学習課題 復習：電子絵本作りに必要な素材集めや、資料作成を行う</p> <p>1 5 PowerPointのまとめ・発表 電子絵本のプレゼンテーション発表 学習課題 復習：効果的な手法でのプレゼンテーション発表を振り返り、改善点を考える</p>
授業形態	演習
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>①パソコンの基本操作を理解し、タッチタイピングができる ②情報モラルの基礎的な知識を理解している ③Wordを使い、イラストや写真を用いた園だよりの作成ができる ④Excelを使い、行事カレンダーや出席簿など、実践的な表の作成ができる ⑤PowerPointを使い、電子絵本を作成し、適切に発表を行うことができる</p>
教科書・参考書	テキスト：コンピュータ演習（テキスト代：1,000円）
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	
備考・メッセージ	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位	選択
担当教員			
北村 光子			

講義概要	世代間交流は、親族集団で発生すると考えられるが、現代社会の風潮をみると親世代と子世代が其々のライフスタイルを守り独立した生活を営む傾向がある。それは、家族力の弱化と地域力の低下が挙げられ地域を含む世代間交流は希薄になってきている。授業では、事例から家族構成員（特に母親像）の役割について検討していく。また、高齢者と子どもの交流によって今後の家族像を模索しながらそれに携わる専門職にあり方を検討する。		
授業計画	1	世代間交流の概要① 世代間交流とソーシャルキャピタル、学際的性格 学習課題 復習：授業を振り返りノートにまとめる。 予習：世代間の相互学習	
	2	世代間交流の概要② 世代間の相互学習・相互支援 学習課題 復習：世代間の相互学習と支援 予習：プロダクティビティの視点	
	3	世代間交流の概要③ プロダクティビティの視点からみた高齢者の次世代支援 学習課題 復習：高齢者の次世代支援 予習：高齢者の生活	
	4	各世代者対象（歴史的視点）① 高齢者の理解 学習課題 復習：高齢者の心身の状況 予習：高齢者の身体	
	5	各世代者対象（歴史的視点）② 高齢者体験 学習課題 復習：高齢者の身体的な模擬から心を考える 予習：壮年期の生活	
	6	各世代者対象（歴史的視点）③ 壮年期の理解（母親像と父親像） 学習課題 復習：壮年期の状況 予習：母親の役割（文献収集）	
	7	各世代者対象（歴史的視点）④ 母親の役割 学習課題 復習：母親像をまとめる 予習：まとめたものを文献から根拠づけする	
	8	各世代者対象（歴史的視点）⑤ 母親像の発表・ディスカッション 学習課題 復習：他の学生の考え方と自分との比較から自分なりの母親像を模索する 予習：福祉文化について調べる	
	9	世代間交流と福祉文化① 佐世保市の福祉文化 学習課題 復習：居住地の文化を知る 予習：地域の保育	
	10	世代間交流と福祉文化② 地域と保育・教育機関 学習課題 復習：居住地の福祉文化 予習：親のあり方	
	11	世代間交流と福祉文化③ 親性準備期での教育的立場 学習課題 復習：子どもの教育 予習：文化と教育	
	12	世代間交流と福祉文化④ 教育と世代間交流 学習課題 復習：教育と世代間交流の関わり 予習：幼老複合施設	
	13	世代間交流と福祉文化⑤	

	<p>幼老複合施設</p> <p>14 学習課題 復習：幼老複合施設の意義 予習：文化と子どもの成長</p> <p>専門職のあり方① 世代間交流の場</p> <p>15 学習課題 復習：子どもの成長が伺える世代間交流 予習：保育士像</p> <p>専門職のあり方② 保育と介護の関わり</p> <p>学習課題 復習：保育士・介護福祉士のあり方 予習：</p>
授業形態	<p>①世代間交流の概要がわかる。</p> <p>②歴史的背景かを捉えながら、家族構成員のあり方を考察することができる。</p> <p>③母親の役割を通して、保育のあり方を考えることができる。</p> <p>④世代間交流を踏まえ福祉文化との関連性がわかる。</p> <p>⑤子どもに対する専門職の係わりを検討し、将来の世代間交流の影響を検討することができる。</p>
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>①人間の生活を学生の日常生活と比較して検討する</p> <p>②介護福祉援助展開において、介護福祉の基本原則に則った対人援助の方法と技術を習得する</p> <p>③介護福祉の専門性について基本的な考え方を習得する</p> <p>④介護職に求められる倫理観について基本的な考え方を習得する</p> <p>⑤今後の介護福祉に関する諸課題を検討し理解を深める</p>
教科書・参考書	適宜プリント配布
履修条件	6
履修上の注意	
オフィスアワー	授業時間後や空きコマなど、教室や研究室で質問など受け付けます。
備考・メッセージ	次回の授業範囲を予習し、自分なりの考えをまとめ授業に臨むようにしてください。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位	必修
担当教員			
安部 直樹 戸田 恵理子			

講義概要	「ホスピタリティ」の概念を理解し、私たちの暮らしの中にあるホスピタリティマインドについて理解する。また、本学の見学の精神でもある「茶道」を取り入れた教育活動等への参加を通して、保育者に必要なホスピタリティマインドを理解し、様々な保育現場においての実践を目指す。
授業計画	<p>1 ホスピタリティの概念について ホスピタリティの概念の理解 学習課題 復習： 予習：</p> <p>2 ホスピタリティの概念について 日本の文化におけるホスピタリティについて 学習課題 復習： 予習：</p> <p>3 ホスピタリティを重視する茶道の目的 茶道文化とホスピタリティ精神の融合</p> <p>4 ホスピタリティを重視する茶道の目的 茶道点前を通じたマナーや作法の習得 学習課題 復習： 予習：</p> <p>5 茶道 鎮信流の歴史的背景 平戸に生まれた茶道鎮信流の歴史について① 学習課題 復習： 予習：</p> <p>6 茶道 鎮信流の歴史的背景 平戸に生まれた茶道鎮信流の歴史について② 学習課題 復習： 予習：</p> <p>7 「茶道」を取り入れた保育・教育活動の実際① 茶道大会への参加学習① 学習課題 復習： 予習：</p> <p>8 「茶道」を取り入れた保育・教育活動の実際① 茶道大会への参加学習② 学習課題 復習： 予習：</p> <p>9 「茶道」を取り入れた保育・教育活動の実際① 茶道大会への参加学習③ 学習課題 復習： 予習：</p> <p>10 「茶道」を取り入れた保育・教育活動の実際② 子どもの茶道体験（お茶ごっこ）への参加学習① 学習課題 復習： 予習：</p> <p>11 「茶道」を取り入れた保育・教育活動の実際② 子どもの茶道体験（お茶ごっこ）への参加学習② 学習課題 復習： 予習：</p> <p>12 「茶道」を取り入れた保育・教育活動の実際② 子どもの茶道体験（お茶ごっこ）への参加学習③ 学習課題 復習： 予習：</p> <p>13 保育者に必要なホスピタリティマインド ホスピタリティを実践するためのマナーの重要性</p>

	<p>学習課題 復習： 予習： 14 保育者に必要なホスピタリティマインド 子どもと・保護者・職員間のコミュニケーションについて</p> <p>学習課題 復習： 予習： 15 学修のまとめ 研究レポートのまとめ</p> <p>学習課題 復習： 予習：</p>
授業形態	講義・演習
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>①ホスピタリティ (hospitality) の概念を理解する ②ホスピタリティを重視する茶道の目的を理解する ③身近な地域 (平戸) に生まれた茶道鎮信流の歴史的背景を理解し、地域文化の伝承と発展について学ぶ ④「茶道」を取り入れた保育・教育活動に参加し、具体的なホスピタリティの実際について理解する ⑤ホスピタリティマインドを持つ保育者の必要性とその役割について考察する</p>
教科書・参考書	<p>テキスト：なし 参考書：必要に応じて文献等の資料を提示・配布</p>
履修条件	
履修上の注意	演習においては、薄茶点前の習得を目指す
オフィスアワー	授業時間・会議等以外の時間は対応可能
備考・メッセージ	点前実技においては、服装や身だしなみなみにも十分に配慮すること。 また、講義内容に関連する資料等の収集・整理も十分に行うこと。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位	必修
担当教員			
陣内敦 川原ゆかり 座間味愛理 藤野正和			

講義概要	最初に研究の意義と進め方について講義し、各学生の研究テーマが設定された後にこの研究指導教員を決定する。以後、ゼミナール形式で研究を進めていく。
授業計画	<p>1 オリエンテーション① 修了研究の2年間の流れについて 学位申請について 学習課題 予習：学科時代の保育実践演習のレポート作成の振り返りをおこなう 復習：学位取得への意識を高める</p> <p>2 情報リテラシー 研究室からの情報検索について 学習課題 予習：ノートパソコンの準備をする 復習：情報検索の復習をおこなう</p> <p>3 研究テーマの検討 担当教員の紹介（研究・教育内容等について） 教育学研究の関心事調査 学習課題 予習：教育学研究の関心事についてまとめておく 復習：研究の具体的方法について構想する</p> <p>4 研究① 問題状況の設定 学習課題 予習：研究の具体的方法について構想する 復習：指導教員の指示する次の研究の課題について学習を進める</p> <p>5 研究② 問題状況の設定 学習課題 予習：研究の具体的方法について構想する 復習：指導教員の指示する次の研究の課題について学習を進める</p> <p>6 研究③ 問題点の絞り込み 学習課題 予習：研究課題の成果をまとめ、報告の準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究の課題について学習を進める</p> <p>7 研究④ 問題点の絞り込み 学習課題 予習：研究課題の成果をまとめ、報告の準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究の課題について学習を進める</p> <p>8 研究⑤ 文献検討 学習課題 予習：研究課題の成果をまとめ、報告の準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究の課題について学習を進める</p> <p>9 研究⑥ 文献検討 学習課題 予習：研究課題の成果をまとめ、報告の準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究の課題について学習を進める</p> <p>10 研究⑦ 文献検討 学習課題 予習：研究課題の成果をまとめ、報告の準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究の課題について学習を進める</p> <p>11 研究⑧ 文献検討 学習課題 予習：研究課題の成果をまとめ、報告の準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究の課題について学習を進める</p> <p>12 研究⑨ 問題解決の方針案 学習課題 予習：研究課題の成果をまとめ、報告の準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究の課題について学習を進める</p> <p>13 研究⑩ 問題解決の方針案 学習課題 予習：研究課題の成果をまとめ、報告の準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究の課題について学習を進める</p> <p>14 研究⑪ 研究テーマの明確化 学習課題 予習：研究課題の成果をまとめ、報告の準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究の課題について学習を進める</p> <p>15 研究⑫ 研究テーマの明確化 学習課題 予習：研究課題の成果をまとめ、報告の準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究の課題について学習を進める</p>
授業形態	演習

評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<ul style="list-style-type: none"> ①自らの保育観および保育者観を見出す意思を持つことができる ②保育職の社会的役割や倫理について理解することができる ③多視点の観点によって問題を客観的に考察することができる ④基本的な情報リテラシーを身につけている ⑤自ら追求すべき研究課題を見つけている
教科書・参考書	研究テーマごとに、必要な参考資料を提示。
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業時間前後に教室で質問を受け付ける。任意に研究室を訪ね質問することも可能である。
備考・メッセージ	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位	選択
担当教員			
安部恵美子 河野睦美			

講義概要	本授業の目的は、専攻科学生に課せられている学位論文を作成するための基礎スキルである、研究論文の読み方・まとめ方・発表の仕方を学ぶことである。具体的には、まず、教員が提示する保育分野を中心とする学術論文を通読してその大意をつかむ演習を行って論文形式の文章に慣れる。次に自分の興味関心に基づき選択した3篇程度の論文を詳読しその内容を要約し自らの意見をまとめたレポートを作成する。最後に、作成したレポートについて発表した後、教員を含む受講者の質問や意見を聞き応答して、自分の考えを発展させるという授業を展開するものである。
授業計画	<p>1 文献購読の方法1 文献の種類とクリティカル・リーディング</p> <p>2 文献購読の方法2 文献の大意のつかみかた サンプル文献を使用したワーク その1</p> <p>3 文献購読の方法3 文献の大意のつかみかた サンプル文献を使用したワーク その2</p> <p>4 文献購読の方法4 文献の大意のつかみかた 自分で選択した文献を使用したワーク その1</p> <p>5 文献購読の方法5 文献の大意のつかみかた 自分で選択した文献を使用したワーク その2</p> <p>6 文献購読の方法6 文献の大意のつかみかた 自分で選択した文献を使用したワーク その3</p> <p>7 文献要約とプレゼンスキル1 アカデミック・ライティング 一事実と意見の相違の認識</p> <p>8 文献要約とプレゼンスキル2 明快な文書作成の方法 要約文書（論文）の構成</p> <p>9 文献要約とプレゼンスキル3 明快な文書作成の方法 わかりやすい文章表現 図や表の使用</p> <p>10 文献要約とプレゼンスキル4 文献に関連する情報検索の方法（図書館利用 ネット検索 等）</p> <p>11 文献要約とプレゼンスキル5 文書の体裁を整える方法 パソコン活用実習その1</p> <p>12 文献要約とプレゼンスキル6 文書の体裁を整える方法 パソコン活用実習その2</p> <p>13 プレゼン&ディスカッション1 文献要約の個別発表と全体討議</p> <p>14 プレゼン&ディスカッション2 文献要約の個別発表と全体討議</p> <p>15 プレゼン&ディスカッション3 文献要約の個別発表と全体討議</p>
授業形態	演習
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>①文献購読の方法の基礎を学ぶ</p> <p>②興味のある文献（研究論文）を購読する</p> <p>③文献（研究論文）の内容の要約の方法を学ぶ</p> <p>④文献要約に関する効果的な発表方法（プレゼンスキル）を学ぶ</p> <p>⑤要約発表の場の討議に積極的に参加する</p>
教科書・参考書	<p>テキスト：「大学生からのスタディ・スキルズ 知へのステップ」 学習技術研究会 編著 くろしお出版</p> <p>参考書：よくわかる卒論の書き方 白井利明・高橋一郎 著 ミネルヴァ書房</p>
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	いつでも対応しますが、出張が多いため事前に予約をすること
備考・メッセージ	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位	必修
担当教員			
陣内敦 川原ゆかり 座間味愛理 藤野正和			

講義概要	ゼミナール形式で研究を進めていく。学生各自が提起した幼児教育（保育）における問題・課題について、ゼミナールの担当教員が助言指導をおこないながら研究を進めていく。学年末には研究経過発表会を開催し、ここで研究経過の論文発表をおこないインターンシップ園を中心とした幼稚園や保育園関係者と学内の教員からの助言指導を受け、さらに2年次の研究へとつないでいく。
授業計画	<p>1 研究① 論文の章立て検討 学習課題 予習：これまでの研究課題の成果をまとめ、担当教員への報告準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究課題について学習を進める</p> <p>2 研究② 論文の章立て検討 学習課題 予習：これまでの研究課題の成果をまとめ、担当教員への報告準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究課題について学習を進める</p> <p>3 研究③ 問題解決の実施・評価のプロセスの記述 学習課題 予習：これまでの研究課題の成果をまとめ、担当教員への報告準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究課題について学習を進める</p> <p>4 研究④ 問題解決の実施・評価のプロセスの記述 学習課題 予習：これまでの研究課題の成果をまとめ、担当教員への報告準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究課題について学習を進める</p> <p>5 研究⑤ 仮説の記述 学習課題 予習：これまでの研究課題の成果をまとめ、担当教員への報告準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究課題について学習を進める</p> <p>6 研究⑥ 仮説の記述 学習課題 予習：これまでの研究課題の成果をまとめ、担当教員への報告準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究課題について学習を進める</p> <p>7 研究⑦ 論文全体の調整と経過的テーマの設定 学習課題 予習：これまでの研究課題の成果をまとめ、担当教員への報告準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究課題について学習を進める</p> <p>8 研究⑧ 学年末成果レポート（研究経過）の作成 学習課題 予習：これまでの研究課題の成果をまとめ、成果レポート作成の準備をおこなう 復習：文章を推敲する</p> <p>9 研究⑨ 学年末成果レポート（研究経過）の作成 学習課題 予習：これまでの研究課題の成果をまとめ、成果レポート作成の準備をおこなう 復習：研究の振り返りをおこなう</p> <p>10 研究経過発表会の資料作成① 論文（研究経過レポート）集編集 学習課題 予習：論文（研究経過レポート）の印刷原稿を作成する 復習：論文（研究経過レポート）をデータ保存する</p> <p>11 研究経過発表会の資料作成② パワーポイント作成 学習課題 予習：既修了者のパワーポイントを参考に自身のプレゼン方法を模索する 復習：パワーポイントの修正をおこなう</p> <p>12 研究経過発表会の資料作成③ 口頭発表練習 学習課題 予習：自身のパワーポイントの内容を把握する 復習：パワーポイントの修正をおこなう</p> <p>13 研究経過発表会の資料作成④ 質疑を想定しながら補助資料の作成 学習課題 予習：質疑応答の内容を予想する 復習：補修学習をおこなう</p> <p>14 研究経過発表会の実施① 発表会の運営と論文発表 学習課題 予習：自身の研究の目的を再確認する 復習：自身の研究の成果を再確認する</p> <p>15 研究経過発表会の実施② 発表会の運営と論文発表 学習課題 予習：自身の発表について振り返る 復習：助言指導について振り返る</p>

授業形態	演習
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	①自らの保育観および保育者観を形成するための総合的学習を行い、多角的なスキルを身に付けている ②先行研究の論拠や方向性を理解し、自己課題を見つけることができる ③保育・教育や社会問題に関する情報を適切に収集・分析し、問題意識を持つことができる ④問題に対して論理的な仮説を立てることができる ⑤研究方法と研究計画を立案することができる
教科書・参考書	研究テーマごとに、必要な参考資料を提示。
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業時間前後に教室で質問を受け付ける。任意に研究室を訪ね質問することも可能である。
備考・メッセージ	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位	選択
担当教員			
ルーク・ロページュ			

講義概要	①英語のフラッシュカードプロジェクト、②英語の歌プロジェクト、③英語絵本翻訳プロジェクトの3つのプロジェクトに取り組む。上記のようなテーマで幼児に英語を教えるときにどのようなことに注意し、また工夫して授業を組み立てたらよいか、教材を作成したらいいかを取り組みを通して考える。作成した成果物は今後の保育現場でも使用できるものにする。英語絵本翻訳プロジェクトに関しては最終的に英語での読み聞かせの練習まで行ければ理想的である。
授業計画	<p>1 Introduction (4月7日) 幼児期の英語教育・学習とは 子どもたちが初めに学ぶ英語とはどのようなものか (物質名詞・(抽象名詞)、動詞、形容詞) 見ることができるもの、触ることができるもの、五感で感じられるもの 授業の進め方、評価方法などの説明 学習課題 復習：なし 予習：なし</p> <p>2 Flash Cardプロジェクト① (4月14日) 語彙習得のためのフラッシュカード作り (一人ずつ異なるカテゴリーのカードを作成) : 物質名詞 (果物・動物)、動詞、形容詞 apple→red→circle→sweet等の関連・連想 単語数はカテゴリーによって異なる (5~20) コンピュータを使ってカード作り (プログラムは個人にまかせる)、印刷、ラミネート できれば次回プレゼンテーションの構成作成 (ピクチャーカードを使用したメモリーゲーム等含む) 学習課題 復習：カード作成&レッスンプラン作成 予習：カテゴリー決め</p> <p>3 Flash Cardプロジェクト② (4月21日) フラッシュカード作成 コンピュータを使ってカード作り (プログラムは個人にまかせる)、印刷、ラミネート 学習課題 復習：カード作成&レッスンプラン作成 予習：カード作成&レッスンプラン作成</p> <p>4 Flash Cardプロジェクト③ (4月28日) フラッシュカード作成 コンピュータを使ってカード作り (プログラムは個人にまかせる)、印刷、ラミネート 学習課題 復習：カード作成&レッスンプラン作成 予習：カード作成&レッスンプラン作成</p> <p>5 Flash Cardプロジェクト④ (5月12日) フラッシュカード、レッスンプラン作成 練習 学習課題 復習：カード作成&レッスンプラン作成 予習：カード作成&レッスンプラン作成</p> <p>6 Flash Cardプロジェクト⑤ (5月19日) レッスンプラン作成 フラッシュカードレッスンリハーサル 学習課題 復習：フラッシュカードレッスンリハーサル 予習：フラッシュカードレッスンリハーサル</p> <p>7 Flash Cardプロジェクト⑥ (5月26日) 各自プレゼン練習 プレゼン発表 Peer Evaluation (フラッシュカードの構成、大きさ、プレゼンの態度、長さ) 学習課題 復習：フィードバックに関して考え、次に活かす 予習：次回プロジェクトのテーマ選択</p> <p>8 English Songs for Kids① (6月2日) 英語のうたを通して子どもたちの英語能力を高めるのに効果的な方策とは 例として英語のうた"do-rei-me"歌詞の解説と実践 英語のうたを選択→内容理解 学習課題 復習："do-rei-me"歌詞の内容、歌の選択に活かす 予習：英語の歌の選択</p> <p>9 English Songs for Kids② (6月9日) 英語の歌決定 レッスンプランの作成 具体的にレッスンの台本を作成開始 英語の歌で使用する教材の作成 英語のうたを査定→内容理解</p>

	<p>学習課題 復習：レッスン台本作成&教材づくり 予習：レッスン台本作成&練習</p> <p>10 English Songs for Kids③ (6月16日) 英語の歌レッスンリハーサル 英語の歌で使用する教材の作成</p>
	<p>学習課題 復習：レッスンリハーサル 予習：レッスン台本作成&練習</p> <p>11 English Songs for Kids④&英語絵本の選択 (6月23日) 英語の歌レッスン発表 Peer Evaluation (うたの内容、レッスン構成、声の大きさ、プレゼンの態度、長さ) 次回プロジェクト「英語絵本翻訳」の絵本選択</p>
	<p>学習課題 復習：英語の歌レッスンで評価された内容について。 予習：絵本選択</p> <p>12 英語絵本翻訳プロジェクト① (6月30日) 英語絵本の査定、決定</p>
	<p>学習課題 復習：翻訳作業 予習：翻訳作業</p> <p>13 英語絵本翻訳プロジェクト② (7月7日) 英語絵本の翻訳作業</p>
	<p>学習課題 復習：翻訳作業 予習：翻訳作業</p> <p>14 英語絵本翻訳プロジェクト③ (7月14日) 英語絵本の翻訳提出 "Marley&Me"視聴、映画英語での聞き取り</p>
	<p>学習課題 復習：翻訳作業 予習：翻訳作業&提出準備</p> <p>15 英語絵本翻訳プロジェクト④ (7月21日) 英語絵本の翻訳提出 "Marley&Me"視聴、映画英語での聞き取り</p>
	<p>学習課題 復習：翻訳作業 予習：翻訳作業&提出準備</p> <p>16 予備日 (7月28日) なし</p>
授業形態	講義
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>① 幼児期における様々な英語学習の方法を考察し理解できるようになる。</p> <p>② 日本語との折り合い、また幼児期の英語学習の問題点や指導の難しさを理解できるようになる。</p> <p>③ 英語教材作成を通し、幼児に英語を教える際の教材の効果を認識し、より効果的な教材を作る工夫ができる。</p> <p>④ 幼児が積極的に楽しみながら英語の学習ができる英語の授業を工夫し、準備し行うことができる。</p> <p>⑤ 英語絵本の読み聞かせの練習を通し英語スピーキング技術を上達させる。</p>
教科書・参考書	<p>テキスト：なし 担当教員が適宜資料、プリントを配布する。</p> <p>参考書：保育系テキスト、子どもの遊びに関する書籍、インターネット等。授業内容に応じ各自が積極的に利用することが望まれる。</p>
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	<p>Feel free to visit me in my office anytime I am not in class or a meeting. Wednesday 10:50 - 12:20, Wednesday 1:10-4:20, Thursday 10:50 - 12:20, Thursday 1:20-4:20</p>
備考・メッセージ	<p>授業の事前準備はもとより、授業への積極的な参加。プレゼン作成、準備、発表を積極的な姿勢で行うこと。 辞書は必携。</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位	必修
担当教員			
陣内敦 川原ゆかり 座間味愛理 藤野正和			

講義概要	ゼミナール形式で研究を進めていく。1年次末におこなった研究経過発表会においてインターンシップ園を中心とした幼稚園や保育園関係者と学内の教員からの助言指導を生かしながら、2年次の研究へとつないでいく。特に研究データの収集や研究保育の実施およびこの分析と考察を進めながら、研究内容に深さを求めていく。
授業計画	<p>1 オリエンテーション 2年次の研究の進め方について 学位申請の流れについて 学習課題 予習：1年次の研究内容について振り返る 復習：研究の進め方と学位申請の方法について十分に理解する</p> <p>2 研究① 研究の動機や目的の確認 学習課題 予習：これまでの研究課題の成果をまとめ、担当教員への報告準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究課題について学習を進める</p> <p>3 研究② 研究の方法の確認 学習課題 予習：これまでの研究課題の成果をまとめ、担当教員への報告準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究課題について学習を進める</p> <p>4 研究③ 研究調査や研究保育の計画 学習課題 予習：これまでの研究課題の成果をまとめ、担当教員への報告準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究課題について学習を進める</p> <p>5 研究④ 研究データの収集や研究保育の実践 学習課題 予習：これまでの研究課題の成果をまとめ、担当教員への報告準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究課題について学習を進める</p> <p>6 研究⑤ 研究データの収集や研究保育の実践 学習課題 予習：これまでの研究課題の成果をまとめ、担当教員への報告準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究課題について学習を進める</p> <p>7 研究⑥ 研究データの収集や研究保育の実践 学習課題 予習：これまでの研究課題の成果をまとめ、担当教員への報告準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究課題について学習を進める</p> <p>8 研究⑦ 研究データの収集や研究保育の実践 学習課題 予習：これまでの研究課題の成果をまとめ、担当教員への報告準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究課題について学習を進める</p> <p>9 研究⑧ 研究データの収集や研究保育の実践 学習課題 予習：これまでの研究課題の成果をまとめ、担当教員への報告準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究課題について学習を進める</p> <p>10 研究⑨ 研究データや研究保育の分析 学習課題 予習：これまでの研究課題の成果をまとめ、担当教員への報告準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究課題について学習を進める</p> <p>11 研究⑩ 研究データや研究保育の分析 学習課題 予習：これまでの研究課題の成果をまとめ、担当教員への報告準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究課題について学習を進める</p> <p>12 研究⑪ 研究データや研究保育の考察 学習課題 予習：これまでの研究課題の成果をまとめ、担当教員への報告準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究課題について学習を進める</p> <p>13 研究⑫ 研究データや研究保育の考察 学習課題 予習：これまでの研究課題の成果をまとめ、担当教員への報告準備をおこなう 復習：指導教員の指示する次の研究課題について学習を進める</p> <p>14 研究⑬ 学期末の研究成果のまとめ 学習課題 予習：自身の研究の成果について振り返る 復習：研究の補正について考える</p> <p>15 学位申請手続き 単位修得状況等申告書の作成 学習課題 予習：学科の単位修得科目及び専攻科の単位修得科目（見込みを含む）を整理する 復習：学位授与申請書作成の準備をおこなう</p>

授業形態	演習
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	①自らの保育観および保育者観を確立し、学問的に検証することができる ②正しい文法によって文章を構成することができる ③自らの研究内容を論理的に文章構成する力を身に付けている ④問題や課題について適切な方法で調査・分析する方法を習得し、研究内容を確認することができる ⑤問題の仮説に対して適切な方法で実証する方法を習得している
教科書・参考書	研究テーマごとに、必要な参考資料を提示。
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業時間前後に教室で質問を受け付ける。任意に研究室を訪ね質問することも可能である。
備考・メッセージ	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位	必修
担当教員			
陣内敦 川原ゆかり 座間味愛理 藤野正和			

講義概要	教育（保育）の環境にある様々な問題や課題の中から自らの研究テーマを探り、教育課程内の学習、自主的探究、教育（保育）現場におけるフィールドワークをもとに、研究をおこなっていく。この研究の結果を「学修成果レポート」として作成、学修の総まとめとしての修了研究発表会において口頭発表をおこなう。
授業計画	<p>1 本授業の履修計画① 学修の総まとめ科目履修計画書作成 学習課題 予習：修了研究Ⅲまでに作成した研修資料を整理する 復習：履修計画書作成について必要な書類を補足する</p> <p>2 本授業の履修計画② 学修の総まとめ科目履修計画書作成 学習課題 予習：自分自身の4年間（短期大学の学科及び専攻科）の学修全体の省察をおこなう 復習：履修への意識を高める</p> <p>3 学修成果レポート作成① 問題状況の設定と問題点の絞り込み 学習課題 予習：修了研究Ⅲまでに作成した研修資料を整理する 復習：文章を推敲する</p> <p>4 学修成果レポート作成① 文献検討・問題解決の方針立案 学習課題 予習：修了研究Ⅲまでに作成した研修資料を整理する 復習：文章を推敲する</p> <p>5 学修成果レポート作成① 研究課題の明確化 学習課題 予習：修了研究Ⅲまでに作成した研修資料を整理する 復習：文章を推敲する</p> <p>6 学修成果レポート作成① 論文の章立ての検討 学習課題 予習：修了研究Ⅲまでに作成した研修資料を整理する 復習：文章を推敲する</p> <p>7 学修成果レポート作成① 論文全体の調整と最終的なテーマ設定 学習課題 予習：修了研究Ⅲまでに作成した研修資料を整理する 復習：文章を推敲する</p> <p>8 学修成果レポート作成① 論文の要旨作成 学習課題 予習：完成した学修成果レポート（論文）を通読する 復習：文章を推敲する</p> <p>9 修了研究発表会の資料作成① 論文（学修成果レポート）集編集 学習課題 予習：完成した学修成果レポート（論文）の印刷原稿を作成する 復習：完成した学修成果レポート（論文）をデータ保存する</p> <p>10 修了研究発表会の資料作成② パワーポイント作成 学習課題 予習：既修了者のパワーポイントを参考に自身のプレゼン方法を模索する 復習：パワーポイントの修正をおこなう</p> <p>11 修了研究発表会の資料作成③ 口頭発表練習 学習課題 予習：自身のパワーポイントの内容を把握する 復習：パワーポイントの修正をおこなう</p> <p>12 修了研究発表会の資料作成④ 質疑を想定しながら補助資料の作成 学習課題 予習：質疑応答の内容を予想する 復習：補修学習をおこなう</p> <p>13 修了研究発表会の実施① 発表会の運営と論文発表 学習課題 予習：自身の研究の目的を再確認する 復習：自身の研究の成果を再確認する</p> <p>14 修了研究発表会の実施② 発表会の運営と論文発表 学習課題 予習：自身の発表について振り返る 復習：助言指導について振り返る</p> <p>15 現在の成果と今後の研究の展望 学生の自己点検票作成 学習課題 予習：自身の学修の成果を振り返る 復習：修了後の研究の展望について構想をおこなう</p>

授業形態	演習
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	①自らの教育観（保育観）を確立し、展望を見つけることができる ②自らの研究内容を、正しい文法によって論理的に文章構成する力を身につけている ③問題や課題について適切な方法で調査・分析し、仮説に対して実証する方法を習得している ④研究した内容を適切な方法でプレゼンテーションし、より客観的な自己評価をもとに質疑に対して適切に回答することができる ⑤研究内容を学修成果として定着させ、社会に伝達すべき事項を適切な方法で意見表明することができる
教科書・参考書	研究テーマごとに、必要な参考資料を提示。
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業時間前後に教室で質問を受け付ける。任意に研究室を訪ね質問することも可能である。
備考・メッセージ	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1	選択
担当教員			
中尾健一郎			

講義概要	<p>①体力・運動能力テストを実施し評価する 運動生活調査の実施し評価する ②トレッキングのポイントを理解する ネイチャーゲームポイントを理解する ③体幹トレーニング、ストレッチ、筋力トレーニングの方法を理解する ④ボルダリングについて理解する スポンジテニス・バドミントン・卓球のポイントを理解する ニューススポーツについて理解する ⑤体力・運動能力テストを実施し評価する 運動生活調査の実施し評価する 診断結果に基づいて運動プログラムを作成する</p>
授業計画	<p>1 運動生活の振り返りと調査結果の分析 運動生活調査の結果をもとに分析し、自己の運動生活を振り返る 学習課題 復習：運動生活調査の結果を振り返る 予習：現在の運動生活を見直す</p> <p>2 体力・運動能力診断の実施と診断結果の分析 体力・運動能力診断の結果をもとに分析し、自己の運動生活を振り返る 学習課題 復習：体力診断の結果を振り返る 予習：現在の運動生活を見直す</p> <p>3 自然体験活動の実践 ネイチャーゲームを体験し、その方法について学ぶ 学習課題 復習：ネイチャーゲームについて振り返る 予習：ネイチャーゲームの体験をもとに自己の運動生活を見直す</p> <p>4 移動系の運動の実践① トレッキングを体験し、その方法について学ぶ 学習課題 復習：身近にトレッキングができるところがないか探してみる 予習：トレッキングの体験をもとに自己の運動生活を見直す</p> <p>5 移動系の運動の実践② ジョギングやウォーキングを体験し、その方法について学ぶ 学習課題 復習：身近にジョギングやウォーキングができるところがないか探してみる 予習：ジョギングやウォーキングの体験をもとに自己の運動生活を見直す</p> <p>6 体力トレーニングの実践 体幹トレーニング、ストレッチ、筋力トレーニングを体験し、その方法について学ぶ 学習課題 復習：自宅でできるトレーニング方法を実践する 予習：普段の生活の中で意識してトレーニングを行い、自己の運動生活を見直す</p> <p>7 平衡系の運動の実践 ボルダリングを体験し、その方法について学ぶ 学習課題 復習：身近にボルダリングができる場所がないか探してみる 予習：ボルダリングの体験をもとに、自己の運動生活を見直す</p> <p>8 操作系の運動の実践① スポンジテニスを体験し、その方法について学ぶ 学習課題 復習：身近にスポンジテニスができる場所がないか探してみる 予習：スポンジテニスの体験をもとに、自己の運動生活を見直す</p> <p>9 操作系の運動の実践② バドミントンを体験し、その方法について学ぶ 学習課題 復習：身近にバドミントンができる場所がないか探してみる 予習：バドミントンの体験をもとに、自己の運動生活を見直す</p> <p>10 操作系の運動の実践③ 卓球を体験し、その方法について学ぶ 学習課題 復習：身近に卓球ができる場所がないか探してみる 予習：卓球の体験をもとに、自己の運動生活を見直す</p> <p>11 ニューススポーツの実践① ペタンクを体験し、その方法について学ぶ 学習課題 復習：身近にペタンクができる場所がないか探してみる 予習：ペタンクの体験をもとに、自己の運動生活を見直す</p> <p>12 ニューススポーツの実践② ターゲットバードゴルフを体験し、その方法について学ぶ 学習課題 復習：身近にターゲットバードゴルフができる場所がないか探してみる</p>

	<p>1 3 予習：ターゲットバードゴルフの体験をもとに、自己の運動生活を見直す 運動生活調査と体力・運動能力診断の実施 運動生活調査と体力・運動能力診断を実施し、初回の結果と比較して分析する</p> <p>学習課題 復習：運動生活と体力診断の結果を振り返る 予習：調査結果をもとに自己の運動生活を見直す</p> <p>1 4 運動プログラムの作成 前回の調査結果を踏まえて、運動生活を豊かにするアクションプログラムを作成する</p> <p>学習課題 復習：発表の準備をする 予習：授業を通して体験した運動やスポーツの方法について振り返る</p> <p>1 5 運動プログラムの発表 前回作成したプログラムを発表し、相互評価を行う</p> <p>学習課題 復習：プログラムを実践できるように生活を見直す 予習：</p>
授業形態	演習
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>①自分の体力・運動能力と運動生活を評価できるようになる ②自然体験活動を体験し、その特性を理解できるようになる ③体力トレーニングを実践し、その方法と効果について理解できるようになる ④移動系、平衡系、操作系の運動とニュースポーツを体験し、その特性を理解できるようになる ⑤自分の体力・運動能力や生活パターンに応じた運動プログラムを作成できるようになる</p> <p>授業に取り組む姿勢（40%） 健康体力向上のための各自の運動プログラムの発表（60%）</p>
教科書・参考書	教科書：必要に応じて資料を配布 参考書：
履修条件	
履修上の注意	実技の際は、運動にふさわしい服装を用意すること
オフィスアワー	各時間の前後に質問を受け付ける
備考・メッセージ	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位	選択
担当教員			
陣内敦			

講義概要	芸術学・西洋美術史についての講義と、海岸アートや陶芸体験、美術館企画展鑑賞や展覧会自主企画の演習活動を併せながら授業を進めていく。主観と客観を認識し、自らの感性を磨くことと感性教育について考察する力を培っていく。		
授業計画	1	オリエンテーション 「陣内敦絵画展」を鑑賞する 学習課題 予習：自分にとっての芸術のとらえ方を振り返る 復習：担当教員の芸術活動についてレポートする	
	2	芸術家の生涯① 芸術家Aの伝記 読み語り 学習課題 予習：興味のある芸術家の伝記を探す 復習：この芸術家が目指したものについて考える	
	3	芸術家の生涯② 芸術家Bの伝記 読み語り 学習課題 予習：興味のある芸術家の伝記を探す 復習：この芸術家が目指したものについて考える	
	4	芸術家の生涯③ 芸術家Cの伝記 読み語り 学習課題 予習：興味のある芸術家の伝記を探す 復習：この芸術家が目指したものについて考える	
	5	自然と芸術① 海岸アート体験 学習課題 予習：自分にとっての自然、自分にとっての芸術について考える 復習：自然と人間の関わりを感じる	
	6	自然と芸術① 海岸アート体験 学習課題 予習：自然へ溶け込む感覚を確認する 復習：海岸アートの振り返りをおこなう	
	7	展覧会見学① 展覧会の選択 学習課題 予習：鑑賞したい展覧会を検索する 復習：この展覧会で発表される芸術の内容について予備知識を得る	
	8	展覧会見学② 展覧会鑑賞 学習課題 予習：展覧会で特にどこを注目すべきかを考える 復習：疑問点や興味が湧いた内容を学芸員や教員に質問する	
	9	展覧会見学③ 展覧会鑑賞 学習課題 予習：自分なりの鑑賞の観点を持つ 復習：展覧会の内容についてレポートする	
	10	美術史① 美術史ビデオ鑑賞 学習課題 予習：西洋美術史について既に知り得ている内容を整理する 復習：歴史が伝える内容を考える	
	11	美術史② 美術史ビデオ鑑賞 学習課題 予習：歴史を学ぶ楽しさを感じる 復習：歴史が伝える内容を考える	
	12	心と芸術① 陶芸体験 学習課題 予習：作りたい陶器を考える 復習：陶器の温かさを感じる	
	13	心と芸術② 陶芸体験 学習課題 予習：人間の手と心の温かさについて考える 復習：心をこめる大切さを確認する	
	14	心と芸術③ 陶芸体験 学習課題 予習：人間の無垢な表現を求めていく 復習：陶芸を通して心と芸術について考える	
	15	自分にとっての芸術 レポート作成 学習課題 予習：自分にとっての芸術とのかかわり方について考える 復習：人生を豊かにするための芸術について考える	

授業形態	講義
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	①芸術の領域と意義を考え、芸術と人間の関係を理解することができる ②世界の美術史を学び、美術に関する見識を身につけることができる ③自然と人間のかかわりの中から、芸術をとらえることができる ④人間の手と心の温かさから、芸術をとらえることができる ⑤芸術鑑賞によって社会人としての感性を磨くことができる
教科書・参考書	テキスト：テーマごとに、必要な参考資料を提示。 参考書：『西洋美術史 東洋美術史 日本美術史』 美術出版社 『おはなし名画シリーズ』 博雅堂出版 他
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業時間前後に教室で質問を受け付ける。任意に研究室を訪ね質問することも可能である。
備考・メッセージ	レポート提出の期限を厳守し、学士としての学力水準を確認できる内容を求める。